

鳥羽市予算決算常任委員会会議録

第 5 日 目

令和 7 年 9 月 1 6 日

○出席委員

委員長	木下順一	副委員長	世古雅人
委員	倉田正義	委員	五十嵐ちひろ
委員	山本欽久	委員	瀬崎伸一
委員	南川則之	委員	濱口正久
委員	坂倉広子	委員	尾崎幹
委員	世古安秀		

議長 河村 孝

○欠席委員（１名）

委員 戸上 健

○出席説明者

歳入

- ・大野副市長
- ・岡本企画財政課長、辻川補佐、中村係長、尾寄主査

歳出

- ・大野副市長
- ・岡本企画財政課長、斎藤副参事
- ・小島市民課長、野村補佐、横田補佐
- ・奥村健康福祉課長、山本副参事、田畑副参事、田畑補佐、寺田室長、杉本副室長、中村係長、細木係長
- ・吉川農林水産課長、榎補佐、上村補佐、榊原係長、松本係長
- ・岩井建設課長、舟橋補佐、寺本補佐、鳥羽副参事、中西係長
- ・世古消防長、松井次長、平井係長
- ・岩本教育長
- ・山本教委総務課長
- ・小林学校教育課長、家田補佐
- ・中村生涯学習課長、村田補佐

特別会計

- ・大野副市長

（定期）

・村山定期船課長

○職務のために出席した事務局職員

事務局 長 佐々木 真 紀

議事総務係
書 記

岡 村 なぎさ

(午前10時00分 再開)

○木下順一委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまから、予算決算常任委員会を再開いたします。

初めに、本日も市議会サポーターの方が傍聴されております。市議会サポーターの方に申し上げます。

当委員会において、議事について可否を表明、または騒ぎ立てることは禁止されておりますので、静粛にお願いいたします。また、当委員会室の入退室につきましては、特段の事情がない限り、休憩時間中に行っていただきますようご協力のほど、お願いいたします。

本日審査をします議案は、議案第26号、令和7年度鳥羽市一般会計補正予算（第4号）、議案第27号、令和7年度鳥羽市定期航路事業特別会計補正予算（第1号）の2件であります。

審査に入る前に委員の皆様申し上げます。

歳入における国や県の支出金については、各事業、取組による支出が伴いますので、歳出の部で質疑を行ってください。質疑については関連質問で進めていただき、質問内容が前後することがないように進行についてご協力ください。

それでは、審査に入ります。

議案第26号、令和7年度鳥羽市一般会計補正予算（第4号）の概要と歳入について、執行部の説明を求めます。

副市長。

○大野副市長 おはようございます。副市長の大野でございます。よろしくお願いいたします。

予算決算常任委員会の審査に当たりまして、私から補正予算の概要についてご説明申し上げます。

議案第26号、令和7年度鳥羽市一般会計補正予算（第4号）につきましては、歳入歳出ともそれぞれ3億5,600万円を追加し、補正後の総額を143億8,800万円とするものです。

歳入予算につきましては、国庫支出金は1,030万7,000円の増額、繰入金は252万3,000円の増額、繰越金は3億3,117万5,000円の増額、諸収入は149万5,000円の増額、市債は1,050万円の増額としてそれぞれ計上しております。

歳出予算につきましては、総務費は2億8,764万2,000円の増額、民生費は1,440万1,000円の増額、衛生費は657万2,000円の増額、農林水産業費は344万5,000円の増額、土木費は955万2,000円の増額、消防費は61万5,000円の増額、教育費は177万3,000円の増額、諸支出金は3,200万円の増額としてそれぞれ計上しております。

次に、地方債補正につきましては、児童福祉施設整備事業を追加し、限度額、起債の方法などを定めるほか、保育所施設整備事業の皆減や地方道路等整備事業に対し、その限度額を変更するものです。

次に、議案第27号、令和7年度鳥羽市定期航路事業特別会計補正予算（第1号）につきましては、歳入歳出ともそれぞれ3,200万円を追加し、補正後の総額を6億9,700万円とするものです。

以上、詳細につきましては各所管課長から説明させますので、ご審査賜りますようお願いいたします。

○木下順一委員長 企画財政課長。

○岡本企画財政課長 企画財政課、岡本です。よろしくお願いします。

それでは、令和7年度一般会計補正予算（第4号）の歳入につきましてご説明させていただきます。

補正予算書の10ページ、11ページをお願いいたします。

まず、14款国庫支出金、2項国庫補助金では、目2民生費国庫補助金、節1社会福祉費補助金で、医療機関と情報連携するためのシステム構築費用に充てる地域診療情報連携推進費補助金248万6,000円、節2児童福祉費補助金で、放課後児童クラブの新設費用に当てる子ども・子育て支援施設整備交付金610万5,000円を計上するほか、節3生活保護費補助金で、生活保護システムの改修費用に充てます生活困窮者就労準備支援事業費等補助金33万円を計上しております。

目3衛生費国庫補助金、節1保健衛生費補助金では、これからのへき地医療の在り方について意見交換を行うセミナーの開催費用に充てます離島活性化交付金138万6,000円を計上しまして、国庫支出金の合計は、合わせまして1,030万7,000円の増額補正となっております。

次に、18款繰入金、2項基金繰入金です。

目3のふるさと創生基金繰入金ですけれども、教育委員会の事業といたしまして、市内小学校5年生、6年生の児童を対象にいたしました自転車用ヘルメットの購入に対する支援のほか、土日を含みます休日の部活動の地域展開実施体制の構築を検討する団体への補助金を合わせまして177万3,000円を計上させていただいております。また、目7のみえ森と緑の県民税市町交付金基金繰入金で、危険木の伐採業務を促進する費用75万円を計上させていただきました。それで、基金の繰入金の合計は252万3,000円となっております。

次に、19款繰越金、1項繰越金、目1繰越金ですけれども、令和6年度決算剰余金といたしまして3億3,117万5,000円を増額するものとなっております。

下の20款諸収入、4項雑入、目1雑入では、説明欄の53ですね、企業から水産研究所に依頼のあった調査研究費用として88万円、また説明欄の54ですけれども、消防団員の公務災害を防止するため市町等が行います安全装備品整備事業に対しまして、消防団員等公務災害補償等共済基金から助成されます消防団員安全装備品整備事業助成金61万5,000円を計上させていただいております。合わせまして149万5,000円を増額補正とさせていただきました。

続きまして、12ページ、13ページをお願いいたします。

21款市債、1項市債です。

まず、目2の民生債では、事業の方針変更によりまして保育所施設整備事業債980万円の減額、それと放課後児童クラブの新設費用に充てます児童福祉施設整備事業債1,230万円を合わせまして250万円を増額しております。目5の土木債では、市道森崎村山線道路改良工事費用に充てます地方道路等整備事業債を800万円計上させていただきました。市債の合計は1,050万円の増額となっております。

最後になりますけれども、地方債補正をご説明いたします。

補正予算書の4ページをお願いいたします。

第2表地方債補正の追加でございます。児童福祉施設整備事業を追加いたしまして、限度額、起債の方法、

利率などを定めております。

続きまして、6ページから7ページをお願いいたします。

ここの部分は地方債の補正の変更でございます。保育所施設整備事業を皆減させていただいて、地方道路等整備事業の限度額を1億6,520万円から1億7,320万円に変更するものとなっております。そのほか、起債の方法、利率などについては変更はございません。

以上で歳入の説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

○木下順一委員長 説明は終わりました。

これより質疑を行います。概要と歳入についてご質疑はございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一委員長 ご質疑もないようですので、説明員交代のため暫時休憩します。

(午前10時11分 休憩)

(午前10時12分 再開)

○木下順一委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

歳出の審査に入ります。

初めに、企画財政課及び市民課所管の2款総務費、3款民生費、12款諸支出金について、担当課の説明を求めます。

企画財政課長。

○岡本企画財政課長 企画財政課、岡本です。よろしくお願いいたします。

補正予算の概要4ページをお願いいたします。

上段の積立金(基金)でございます。

地方財政法第7条の規定に基づきまして、前年度決算剰余金の処分について、実質収支から都市計画事業基金等積立額を控除した後の剰余金の2分の1以上を財政調整基金に積み立てるものとしまして、2億8,630万円を補正させていただくものでございます。

○木下順一委員長 市民課長。

○小島市民課長 市民課、小島です。よろしくお願いいたします。

5ページの下段をご覧ください。

連絡所業務におきまして予算額5万8,000円を計上しております。連絡所での交代勤務が想定よりも増えているに伴い、普通旅費の増額をお願いするものです。

続きまして、6ページ上段をご覧ください。

交通安全対策普及事業につきましては、8万5,000円を計上しております。これは、7月に発生した自損事故に係るドアの修繕料で、後日、保険対応部分が総務課への雑入として見込まれているものでございます。なお、自損事故でございますので、これに係る被害者等はございません。

続きまして、同ページ下段になります。

福祉医療費助成事業につきましては497万2,000円を計上しております。これは、国が医療DX等を

進めていく中で、令和8年度中に導入を目指している医療費助成のオンライン資格確認に必要なシステム改修費用をお願いするものです。

委員の皆様方におかれましては、事前にデータで提供させていただいております市民課資料のほうをご覧ください。よろしいでしょうか。

こちらのほう、カラー刷りですけれども、厚生労働省のホームページの抜粋でございます。

簡単に申し上げますと、絵図で示したとおり、現状は紙の受給者証で資格確認を行っておりますが、紙の受給者証を用いずともマイナンバーカードを使って受給資格を確認できるよう、右下の図にある自治体のビルの絵図から上の矢印でPMH医療費助成システムに伸びている矢印部分、ここの資格情報を登録できるようにするためのシステム改修が今回の補正予算部分となります。また、PMHとは、「パブリックなメディカルのハブ」が頭文字で表記されたものであり、公の医療情報に関する集約点といった意味でございます。

なお、本システムの改修を行っても、県内にある全ての医療機器でマイナンバーカードを用いて福祉医療に係る受給資格を直ちに確認できるものではございません。医療機関側でも資格照会をするためにはシステム改修が必要なことから、現状、全ての医療機関で対応できる状況ではありませんので、紙の受給者証は今後も引き続き継続されることとなりますので、当面の間、業務量やシステムのランニングコストについては増加が見込まれる部分であることもご留意いただければと思います。

最後に、お手数ですが、補正予算書6ページにお戻りください。

主な財源といたしまして、地域診療情報連携推進費補助金の名称で2分の1の国庫支出金が充てられており、今回の改修に係る主な財源となっております。

以上でございます。

○木下順一委員長 企画財政課副参事。

○斎藤副参事 企画財政課、斎藤です。よろしくお願いいたします。

予算説明資料は14ページをご覧ください。

定期航路事業特別会計繰出金で3,200万円でございます。離島住民等の生活の安定と利便性の向上に資することを目的とした定期航路の維持を図るため、定期航路事業特別会計への繰出金を補正します。

以上でございます。

○木下順一委員長 担当課の説明は終わりました。

まず、総務費についてご質疑はございませんか。概要4ページ上段、5ページ下段から6ページ上段までです。

濱口委員。

○濱口正久委員 5ページの下段のところの連絡所業務、これ、よかったですかね。

○木下順一委員長 はい。

○濱口正久委員 当初想定より交代件数が増えているということなんですけれども、これは一時的なものなのか、それとも今後も続きそうなのかというところをちょっとまず教えていただけますでしょうか。

○木下順一委員長 野村課長補佐。

○野村課長補佐 市民課の野村です。よろしくお願いいたします。

今回ですけれども、連絡所の交代要員といたしまして、長岡連絡所には会計年度任用職員を2名配置しております。うち1名ですが、今年度4月より雇用しております、保育所の子の送迎があるために時間に少し制約がございます。そういったところで、鏡浦連絡所にしか行けない現状がありました。

長岡連絡所のほうは、連絡所の中でもやはり取扱件数も多く、経験豊富な会計年度任用職員でも対応に苦労する日もあることから、他の連絡所の職員の休暇がある場合に今年度は鏡浦連絡所の会計年度職員にこの交代をお願いすることにして、その場合に鏡浦連絡所に1年目の会計年度任用職員が行くことになったんですけれども、この対策に当たりまして、長岡連絡所勤務の会計年度職員が鏡浦に行くことを想定していなかったもので、その部分が不足しますので今回補正に上げさせてもらったので、今年度1年の対応で済むかと思います。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。そういう事情が分かったので、対策もしっかりとされているということとで理解しました。

○木下順一委員長 関連はございますか。

関連がなければ、ほかの項目でも構いませんが。よろしいですか。

南川委員。

○南川則之委員 4ページの積立金（基金）というところの財調の話を少し質問させていただきます。

今回2億8,630万円を財調に積み立てるということで、これを積み立てると全体として残高は幾らなのかということと、財調の積立ては、担当課は標準財政規模の15%を目標としているということですが、今回の積立てによって標準財政規模の何%になったかを教えてください。

○木下順一委員長 中村係長。

○中村係長 企画財政課、中村です。よろしくお願いします。

まず、今回2億8,600万円の積立てを行いまして、年度末現在高といたしましては、すみません、100万円単位で申し上げます。14億7,800万円となる見込みとなっております。

そして標準財政規模ですが、令和7年度は67億5,500万円となっておりますので、割り返しますと現時点で21.9%となる見込みとなっております。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 先ほど私も質問したとおり、財政はしっかりと目標を立てて積立て、財調の管理もしていただいとすることで、15%目標で今の話を聞いたら21.9%までいっとるということで、お金というか、基金はあればあるほどいいと思うんですけれども、少なからず、今、生活のいろんなことに困っていると、そういうところに投資するということも必要じゃないかということと、決算のときにいろいろ話があったと思うんですけれども、将来負担比率も令和6年度も皆減となったということで、令和5年度と2か年そういうふうになっているという状態で、しっかり予算のことも考えながらやっていただいとるかどうかというところを含めて少し説明をお願いします。

○木下順一委員長 企画財政課長。

○岡本企画財政課長 委員のおっしゃるとおり、財政調整基金は、目標とする、一応目安とする15%を大幅に今のところ超えているのかなというふうに実感はしております。

ただ、これからの社会情勢も踏まえ、またこれからの後期基本計画、あと市内にある公共施設の老朽化、いろんな問題が山積しております。ですから、財政調整基金に積み立てるというより、これからはもう当初から、基金から繰り入れながら財政運営をしていくしかないかなと思います。その財政見通しに関しましては、きちんとこちらのほうも見込んでまた皆さんにご説明させていただこうと思いますのでご理解ください。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 昨年度のときも担当の企画財政課長がそのような話をされとって、7年度以降もしっかりいろんなことに使わないかんという流れで、先ほど私が言ったように、将来負担比率も皆減になつとるという状況で、本当に先を見越しとるのかどうかというところも含めて、そしたら7年度も結構要るのかなと思いますし、私がさっき言うたように、今生活しとる人らのいろんな思いというんですか、余分なお金というのはあればいいけれども、今の生活者を守っていくことも必要ということで、しっかりと鳥羽市全体、執行部全体で今の鳥羽市に住んどる人の支えになるような予算措置をしていただきたいと思います。

副市長も初めて今回ですけれども、結果から見てこの財調の関係というのは21.9%になつとるということで、その辺の副市長の考え方を教えてください。

○木下順一委員長 副市長。

○大野副市長 まず、財政も踏まえていろんな事業があります。当然、今、委員がおっしゃったように、生活者を守るというのは非常に大事なことやと思います。いろんな事業が大小あって、しっかりその辺は、当然優先順位もありますし、取捨選択していかなあかんというところもございます。そこは財政状況を踏まえて、しっかり取捨選択しながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございます。

ぜひいろんなことを考えながら、本当に議会からも、もっとインフラ整備をしてもらったらどうかとか、予算措置してもらったらどうかとか、子育て世帯に力を入れてほしいとか、いろんなことがあると思います。今、国でも、お米の問題とかいろいろ出ておりますけれども、子供たちに新米を食べてもらうようにお米を配るとか、そんなささいなことでもいいからみんなでいろんなことを考えながら、限られた予算というのをぜひ執行していただきたいと思います。よろしくお願いします。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(発言する者なし)

○木下順一委員長 ないようですので、続いて、民生費及び諸支出金についてご質疑はございませんか。

坂倉委員。

○坂倉広子委員 6ページの福祉医療費の助成事業についてお伺いいたします。

資料もいただいて、詳細な説明はいただきました。DX化を進めるための事業としての取組と思われます。

そして、私がちょっとお伺いしたいのは、福祉医療費というところの名目がありますものですから、その内容というのは、患者様が使われる福祉医療費の部分がありますので、どういう事業内容か教えてください。答えられる部分で結構です。

○木下順一委員長 横田課長補佐。

○横田課長補佐 現状、福祉医療としましては、子供、ひとり親、障がい、それぞれ条件に合った方に対して、医療機関のほうの窓口を受給者証を持っていただきますと、現物給付の方もみえれば償還払いの方もみえますけれども、そこでかかった医療費のほうが後日戻ってくるような制度となっております。

今回のシステム改修に関しましては、説明のほうにもありましたけれども、今、紙で受給者証のほうの確認を医療機関等で行っておりますけれども、それを一部マイナンバーカードでもできるようにするために、そのためにはまず資格の情報自体を大本のところにつなげないといけませんので、今回のシステム改修につきましては、それをするための改修費用となっております。

以上です。

○木下順一委員長 坂倉委員。

○坂倉広子委員 詳細な説明、ありがとうございます。

医療機関とおっしゃいますと、いろいろ鳥羽市においても診療所もあれば、個人の医療機関もあれば、また市外で病院にかかる部分もあるかと思うんですけれども、そういうところへはどのように周知されていますか。

○木下順一委員長 横田課長補佐。

○横田課長補佐 今、周知というところで、利用者に対する周知もあれば、医療機関さんのほうへの周知というのもあるかと思います。市外とかの民間を含めて医療機関等ございますけれども、こちらについては、もしマイナンバーカードを使われるようでしたら、またその改修の関係の補助金等というのがございますので、その辺につきましては、もう国・県等から連絡があったものかとは思っております。

あとは使われる利用者の方に関しましては、補正をお認めいただけましたら、その後、このような方でもマイナンバーカードを使える医療機関もある、課長が説明いたしましたけれども、使えるところと使えないところもございますので、現状、紙の受給者証をこれまでどおり発行する形となりますけれども、そののところににつきましては、またご理解いただけるように周知はしていきたいと思っております。

以上です。

○木下順一委員長 坂倉委員。

○坂倉広子委員 詳細、よく分かりました。また今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「委員長、関連でいいですか」の声あり)

○木下順一委員長 関連、はい。

南川委員。

○南川則之委員 課長の説明で、先ほどからこのシステム改修というところでやっていくということなんですけれども、説明でもあったように紙の資格確認の継続もしていくということで、職員の負担というところが、こういう二重になるということでもかなり業務内容も増えるということですが、今回はシステム改修費用しか計上されていないんですけれども、職員の業務負担、時間外とか職員を増やすとか、そういったことの予算はなぜ盛らなかったのか、ちょっと説明をお願いします。

○木下順一委員長 市民課長。

○小島市民課長 システム改修に係るものだけであるということで、実際、この導入については、民間のほうの医療機関、薬局がついてきていないところから、ちょっと昨年度は見送ったところがあります。じゃ、7年度補正はなぜなのかというところなんですけれども、今回盛らないと、令和8年度の補助金については約束がなされていないということで、急ぎ盛りました。

まずはシステムを構築して、当然、職員の負担というのも紙とデータとというので、100%デジタルになったら理想の社会が実現するわけなんですけれども、100%というのはなかなか難しいところでもありますけれども、結局は国が目指している方向というのを追いかけるという意味合いでまずシステムを盛らせていただいたので、また稼働してみて、これは大変やということが実感できるようにになれば、これぐらいの業務量があるということは内部でも共有していきたいと思います。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 よく分かりました。

書いていただいたように、7年度に改修して8年度中に活用していくということですので、職員の負担軽減というんですか、業務内容が増えるのは間違いないということで、また財政当局としっかりとそういった人件費のところも見ながら予算計上につながるようにしていただきたいなと思います。

私からは以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(発言する者なし)

○木下順一委員長 ご質疑もないようですので、説明員交代のため、暫時休憩します。

(午前10時33分 休憩)

(午前10時36分 再開)

○木下順一委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

続いて、健康福祉課所管の3款民生費及び4款衛生費について、担当課の説明を求めます。

子育て支援担当副参事。

○山本副参事 おはようございます。健康福祉課子育て支援室担当の山本です。よろしくお願いいたします。

それでは、補正予算の概要の7ページ上段をお願いいたします。

放課後児童健全育成事業で1,848万円を計上しております。

加茂地区に放課後児童クラブを新設するに当たり、現岩倉老人憩の家を改修し活用することから、改修に要

する費用を補正するものでございます。

改修内容につきましては、事前に提出いたしました資料の健康福祉課 1 をご覧ください。よろしいでしょうか。

改修内容なんですけれども、まず、この図面の右側になります現行の憩の部屋と言われるもので、ここは 30 畳のスペースがございまして、こちらのほうを畳からフローリングへ改修する予定です。それと、壁紙やふすまの張り替え、カーテンの交換を予定しております。既存の憩の部屋の上段部分になるんですけれども、ステージとうっすら記載されているところ、こちらにつきましては、ステージ部分は撤去せずに児童用の戸棚を上手に設置する予定でございまして。

続きまして、憩の部屋に併設する研修室になるんですけれども、10 畳の部屋となっております。こちらはフローリングにせずに畳を新しく張り替えて静養室という形で活用する予定としております。

続いて、図面の右側にあります給湯室なんですけれども、こちらは給湯室兼事務室として改修する予定で、エアコンの新設やカウンターの設置を予定しております。

また、トイレにつきましては、スペースの都合上多目的トイレが設置できませんので、男女ともバリアフリー化をするものでございます。

そのほか、事務室手前に引き戸を新設するほか、改修部分の照明を LED 化する予定でございまして。

資料の説明は以上です。

補正予算の概要に戻っていただきまして、主な経費として工事請負費で 1,831 万 5,000 円、主な財源としまして 3 分の 1 が国庫補助金、補助金は市債のほうを充当しております。

続きまして、下段をご覧ください。

保育所施設整備事業です。こちらは 982 万 1,000 円の減額をお願いするものでございます。船津保育所と安楽島保育所の統合に関しまして、旧ゆめばー施設を含む安楽島保育所の増改築を予定しておりましたが、旧ゆめばー施設の活用を一旦白紙として、改めて活用策を検討していくということとしましたことから、当初予算に計上いたしました安楽島保育所増改築設計業務に係る費用を減額するものでございます。

○木下順一委員長 健康福祉課長。

○奥村健康福祉課長 健康福祉課、奥村です。よろしくお願いします。

続きまして、8 ページ上段をご覧ください。

生活保護事務事業費は 66 万円を計上しております。生活保護事務は、マイナンバー法においてデータ連携をしている事務となりますが、このたび進学準備給付金のデータ連携に係るレイアウトが改版となりましたことから、市の生活保護システムを改修するものです。主な財源は、生活困窮者就労準備支援事業費等補助金でございまして。

下段をお願いします。

市災害見舞弔慰金支給事業は 11 万円を計上しております。今回、議案第 32 号で条例の一部改正をお願いしました災害弔慰金等支給審査委員会の 1 回分の開催に必要な費用を補正するものです。主な経費は委員報酬となります。

○木下順一委員長 地域医療担当副参事。

○田畑副参事 健康福祉課健康係、田畑です。よろしくお願いいたします。

9ページ上段をご覧ください。

へき地診療所運営事業は657万2,000円を計上しております。今回補正をお願いするのは2点ございます。

まず1点目、一般質問でも答弁しましたが、現在、菅島診療所の医師が休職しております。他の診療所の医師にカバーしてもらいながら代診医師派遣を要請し対応しておりますが、代診医師派遣に係る病院等への負担金350万円及び費用弁償30万円が不足しますので、合計380万円の増額補正を計上しております。

続いて2点目ですが、離島医療に係る講演会を予定しております。資料を提出しておりますので、健康福祉課2をご覧ください。

これは離島医療会議という名称のプログラムで、令和4年度から島根県海士町で3回開催されております。イメージをつかんでいただくため、参考資料として、令和6年度のものになりますが、第3回のプログラムをお示ししております。

セッション1では、「離島医療の現在地」と題して島根大学病院の医師や厚労省医政局の方による話題提供、セッション2では、「住民の想いを知る」ということで、自治医科大学看護学部の先生や元自治体職員が登壇、セッション3では、「離島医療の未来」というタイトルで新たな技術の活用について事例報告があり、本市の神島診療所、小泉医師も講演をしています。

第3回目までは海士町で開催され、隠岐の島前地域の3町村や離島経済新聞等が共催、日本離島センターなどが後援する形で開かれてきておりますが、今年度の第4回について、本市での開催のお話をいただきました。取り扱っている内容がこれからのへき地医療について重要な示唆に富むものであることから、本市も共催に名を連ね、離島医療に携わる先進地の方とのパイプづくりの場や、地域の方々も交えて今後の在り方を考える機会を創出したいと考えております。

本事業については、講演会のほか、前後のフィールドワーク等も行われると聞いておりますが、全体調整や事前事後の情報発信費用、また当日の講演会のウェブ配信等に係る経費については、開催地ではないのですが、引き続き海士町さんに支出いただけると聞いており、本市については、登壇者の調整から実際の招聘に係る交通費、宿泊費といった経費に相当する分を支出し、開催を支えていきたいと考えております。

調整役として第1回から第3回の開催を支えてきた海士町の事業者を考えており、これまでの趣旨を踏まえてふさわしい登壇者の選定、調整をしてもらえるよう業務を委託していきたいと考えております。このための予算として277万2,000円を計上いたします。財源としては、補助率2分の1の国交省離島活性化交付金の活用を予定しております。

説明は以上となります。よろしくご審議のほど、お願いいたします。

○木下順一委員長 担当課の説明は終わりました。

ただいまの範囲についてご質疑はございませんか。7ページ上段から9ページ上段。

坂倉委員。

○坂倉広子委員 7ページ、放課後児童健全育成事業についてお伺いいたします。

来年、令和8年4月1日から放課後児童クラブを岩倉老人憩の家を改修してやっていただくということの詳細

細は説明を伺いました。

この図面というか、資料もいただいておりますがよく分かったんですけども、ここの入り口というのが連絡所と一緒にいると思うんですね。入り口は全部子供たちが入るところも同じだと私は思うんですけども、連絡事務所の方と子供たちの入り口の区別というのはないんですかねと思って。お伺いいたします。

○木下順一委員長 山本副参事。

○山本副参事 坂倉委員のご質問なんですけれども、この図面の真ん中辺り、下のほうが玄関、入り口になっております。今の建物もそうなんですけれども、左側の玄関が加茂連絡所の入口となっております、右側が現老人憩の家の玄関になっております。ですので、そちらの玄関は生かした状態で、放課後児童クラブの子供たちは向かって右側の玄関から入っていただくことを想定しております。

○木下順一委員長 坂倉委員。

○坂倉広子委員 ということは、入り口はもう同じというふうに理解したらいいんですね。別ですね。区切りがちゃんとできると、はい、分かりました。

引き続きよろしいですか。

○木下順一委員長 はい。

○坂倉広子委員 トイレのことについてちょっと伺います。

トイレはバリアフリー化ということで、今、老人会の方とかに使ってもらっていたので、私、たしか洋式にはなっていなかったと思っております。和式だと思うんですけども、ここをきちんと洋式にさせていただいて、そして子供たち、1年生から4年生までですか、預かってもらえる学年というのは。小さいお子さんもいらっしゃると思うんですけども、そういうところも整備されるのか、すみません、詳細になりますが教えてください。

○木下順一委員長 山本副参事。

○山本副参事 トイレの件なんですけれども、現在和式となっておりますので、また、平成4年の造りですので昔の造りで、トイレに入ったら段が下がっているような状態ですので、それをかさ上げしてフラットにして、男性用で一つ、女性用で二つの洋式化を図る予定です。

子供たちが利用するのでその大きさということなんですけれども、基本的には加茂連絡所と共用のスペースになりますので、大人用の通常のトイレを想定しております。当然、保育所の子供たちですと小さい幼児用とか、そういったトイレを設置しておりますけれども、基本的には使っていただけるのかなと想定しております。

○木下順一委員長 坂倉委員。

○坂倉広子委員 ありがとうございます。トイレのバリアフリー化については、子供たちが使いやすい、使い勝手のいい方向でお願いしたいと思います。

そして、もう一つ伺いたいんですが、エアコンのところのお話はなかったんじゃないかと思ひまして、ちょっとエアコンって、近年、暑さ寒さというところがありまして、全体的に今の既存のやつで使われていくのか、新設されるのか聞かせてください。

○木下順一委員長 山本副参事。

○山本副参事 まず、エアコンなんですけれども、給湯室のところは、今、エアコンがついておりませんので、

こちらはエアコンのほうを設置していきたいと考えております。

それと、一番大きな憩の部屋につきましては、既存のエアコンが2機ついておりまして、最近、選挙等でエアコンが壊れていたというのがありまして、ちょっと急遽修繕させていただいたところもありますので、こちらは既存のエアコンをそのまま使いたいと考えております。

それと、10畳の研修室というところはエアコンの古いのがついているんですけども、こちらは空調を更新したいと考えております。

以上です。

○木下順一委員長 坂倉委員。

○坂倉広子委員 詳細、私の聞きたいところはここの部分でした。ありがとうございます。

以上です。

○木下順一委員長 関連はございますか。

倉田委員。

○倉田正義委員 お願いします。

今回の新設に当たっては、加茂地区の待望のものが完成するということで、地域の人は喜んでおるところです。

改修ということでいろいろと、また加茂連絡所との併設ということでご苦労があったかと思うのですが、ちょっとこの図面に見えないところでお聞きしたいことがあります。この建物の西側は国道、それから南と東が市道に挟まれたところに建つということで、子供たちは学校からその市道、あるいは県道に沿う横断歩道を渡って移動することになるかと思うんです。自分自身、学校へ勤務中もこの横断については随分注意を払ってあったところなんです、こういった周辺の環境については幾らか気がかりなところもありまして、その辺の安全対策、ハード面の整備とか、必要なことは何か検討はされましたでしょうか。

○木下順一委員長 山本副参事。

○山本副参事 周辺の安全対策というところなんです、現在も通学路になっている部分でございまして、今現在、子供たちの新しい施設への誘導につきましては、体育館側のほうから国道沿いに歩いてきていただいて、横断歩道がありますので、そちらを渡っていただいて、連絡所の正面のほうから徒歩で来てもらうことを想定しております。

これにつきましては、先月の下旬に加茂小学校の校長先生ともこういった形で誘導していったらええかと協議しておりまして、今現在もその横断歩道を使っているということで、それは引き続きさせていただくということで、特段安全対策を講じるということはありません。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 ありがとうございます。

横断歩道を使用するというので、習慣づけることで解決できるのかなと思いますが、運動場側から東側へつながる通路もありますもので、不意なことで事故等が起こらないように、また、例えば自動車の運転手に対しての安全啓発とか、そういった看板が必要なところがあったら、また検討をお願いしたいと思います。事故があつてからのことになると思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○木下順一委員長 関連はございますか。

五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 放課後児童クラブを新設するに当たって、改修の工事についてのお話なのでちょっとずれてしまうかもしれないんですけども、この改修の工事をする決めるということは、ほぼイコール加茂で放課後児童クラブをつくってこれから運営していくということにもつながるかなと思いますので、ちょっとその運営のことについて確認をさせていただきたいんですけども、委員長、よろしいでしょうか。

○木下順一委員長 はい、確認してください。

○五十嵐ちひろ委員 ありがとうございます。

これが始まると3か所に放課後児童クラブができることになりますけれども、それによって受入れの人数の拡充につながるのかというのを確認したくて、今は3年生までで、例外として4年生で入っている人もいますが、4年生は一度断っていたところが、4年生とか、あるいは6年生まで入れるようになるのかというようなことと、あと今後10年で需要見込みというのは、子供の数が減っていきますから需要見込みも減っていくんじゃないかなと思うんですけども、そこら辺の見込みがどうなっているのかと、あと一般質問で南川委員からも質問がありましたけれども、保護者の負担額が結構あるというところで、3か所になっても負担額が変わらないのかということを確認させてください。

○木下順一委員長 山本副参事。

○山本副参事 五十嵐委員のご質問なんですけれども、まず一つ目の受入れの学年を拡充しないのかというところなんですけれども、現在、確かにうちの条例では、原則として1年生から3年生の小学生となっております。今回3か所に広げることによって、当然受入れの枠が広がりますので、市長からも指示がございまして、小学生という形で学年を区別せずに受入れできないかということで、今現在その方向で、近隣の市町等の状況も踏まえて、そういった形で小学生高学年も含めて受入れできる方向で協議を進めているところでございます。

次の今後10年の需要の見込みなんですけれども、具体的な10年間の需要の見込みというのは、すみません、今現在持っていないんですけども、昨年策定したことも計画におきまして、将来、令和11年度までの量の見込みのほうを算定しております。

その中では、やっぱり子供の数が減っていますので、自然に減ってはいるんですけども、社会情勢とか、先ほど言いました高学年までの受入れというところを勘案しますと、これは私の感覚だけの話になるんですけども、横ばいか微減ぐらいで、利用者は継続して確保できるのかなと考えております。

それと、最後、保護者の負担額、南川議員の一般質問でも市長が答弁させていただいたんですけども、設立当初から利用者負担額が改正されていないということで、そちらのほうも市長のほうから指示を受けておりまして、今現在、他市町、県内の市町の状況を踏まえて、ここで今幾らにするという明言はできませんけれども、利用者負担額の点につきましても、今現在、内部で検討を進めているところでございます。

以上です。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 ありがとうございます。

この放課後児童クラブをつくるに当たって1,848万円払うわけじゃないですか。これを払ってしまうと、もう一度払ったら取り戻せないお金になるので、本当にちょっと運営のことでしつこく聞かせてもらうんですけども、現状、今やっているたんぼぼもエンゼル・クラブも委託金をもらって運営している中で、ただ修繕費を積み立てているというふうに聞いていまして、修繕費の積立てをしなきゃならないような状況というのが大丈夫なのかなというのがあるって、二つの既にあるところの運営状況が私は不安だなと思っているところがある中で、三つ目ができて大丈夫なのかなというところが心配なんですけれども、ちょっとそこら辺のご説明をいただけるでしょうか。

○木下順一委員長 山本副参事。

○山本副参事 運営のところなんですけれども、修繕料の積立てを各運営委員会のほうでしていただいているというのは、恐らく繰越金について、こちらは委託事業で、各委託業者の運営委員会に委託しております。その委託の中の積算にも修繕料というのは盛っております。それはなぜかといいますと、本来、市の建物ですので市が修繕すべきなんですけれども、小修繕であったり機器の故障とか、そういったものに即時に対応できるようにということで委託の中に組み込ませていただいております。

委託料ですので、残金を事細かに精査するわけではなくて、本来、運営委員会さんの努力で安価に抑えたとか、そういったところの部分で、運営委員会自体の委託の残とかで繰越金という、これは市のほうの繰越金ではなくて、あくまで運営委員会の収支の中での繰越金なんですけれども、そういったところが積み重なってきて、それを放置するだけではなくて、修繕を含めて不測の事態に対応するための積立てとして別途管理されているものかなと思っております。

その運営に関して、修繕が今後出てきて、決してこちらがクラブ側に修繕のほうをお願いするとか、そういう意図ではなくて、児童クラブ側が積み立てたお金を還元するのにどういった還元の仕方かというのは委員会の中で決めていただくことになると思うんですけれども、今現在は不測の事態に対応するための積立金として管理されていると考えております。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 ありがとうございます。

そこがどれぐらいたまっているのかも、どんな感じで使われているのかもちょっとよく分からないなというところで、その委託料が足りているのか、多過ぎるのかもよく分からないしというところで、ちょっとそこら辺が、何でしょう、うまく説明できないんですけれども、やや私は不安だなと思うところがあるって、この改修自体も、放課後児童クラブを新しくつくること自体も決して問題はないんです。今後、子供が減っていった放課後児童クラブが定員割れしたとしても、私はそれでもやるべきだと思っています。

けれども、子供のため、保護者のためのものである以上、保護者から預かっているお金とか市から出しているお金がちゃんと使われている状況であってほしいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 発言の前に、今、五十嵐委員の言われることはごもっともなことやと思うんで、その辺も含めて。

山本副参事。

○山本副参事 委託料の積算につきましては、毎年度、各クラブとどういった形でということで協議をしながら積算しておりますので、足りていないということはないと考えております。きちんと運営できるだけの委託料の支出をさせていただいておりますので、その点、運営についてのご心配というのではないものと考えております。

以上です。

○木下順一委員長 瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 事前に聞いておけというところかもわからんのですけれども、ちょっと根本的なところで。

30畳と10畳なんで定員40かなと思うんですけれども、定員はどれぐらいで設定されるんですか。

○木下順一委員長 山本副参事。

○山本副参事 この施設は、児童クラブの施設の基準というのがございまして、児童1人当たり1.65平米というのがございまして、そこから積算していきますと、大体38から39の定員が確保できると踏んでおります。

○木下順一委員長 瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 実際運用が始まるのがもう来年の4月ということになってくると、五十嵐委員もお聞きになられていたんですけれども、運用のところもちょっとここで聞いておかないと、多分もうこれ以降説明はないのかなと思うんで少し踏み込ませていただくんだけれども、今現在、加茂の子は、エンゼルであったりたんぽぼであったり、送迎をしていただいて、送ってってもらってというので利用していると思うんですけれども、加茂にできるということで、加茂小の子を優先的にというか、加茂のこの学童へ来るという形になるんで、送迎は必要なくなるというようにも見えるんですけれども、せっかくここで約40名の分を取っていただいたということは、エンゼルやったかたんぽぼやったか、ごめんなさい、忘れちゃったんやけれども、年間平均の定員ベースで考えるとちょっとどっちかが超えとったなと思うんで、逆に向こうからこっちへ来るというのもあり得るのかなと思うんですけれども、この送迎のシルバーさんをお願いしている分は今後も運用していく予定ですか。その辺の考えはありますか。

○木下順一委員長 山本副参事。

○山本副参事 通所サービスにつきましては、来年度以降は継続しない方向で考えております。各小学校区に一つの児童クラブという形で、今後は、たんぽぼは安楽島小学校区の子供たち、エンゼルは鳥羽小学校区の子供たち、加茂小学校の子供たちについては、もう送迎することなく、こちらのほうに入っていただくということで想定しております。

○木下順一委員長 瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 何となくなんですけれども、人気というか、その施設、施設の雰囲気があるのかなという気もするんですけれども、ちょっといきなり送迎がなくなるというのは不具合が出てくるような気がするんですけれども、対象を増やすとか、小学生という形にされるというのである程度対象も増える中で、また定員がぎゅっと偏ってしまって、そこだけ定員オーバーでこっちはすきすきでというようなのであれば、そこを上手に平準化できないのかなとも思うんですけれども、なぜもうバシッと切っちゃおうかなという方向になったのか。

○木下順一委員長 山本副参事。

○山本副参事 放課後児童クラブの性格なんですけれども、基本的に小学校区単位での設置となっております、今現在、加茂小学校から通所サービスをしていること自体がどっちかといったらイレギュラーな形となっております。

なので、安楽島小学校の子が基本的にはエンゼルに通うとか、鳥羽小学校の子がたんぼぼに通うとかというのはございません。現在も鳥羽小の子らはエンゼル、安楽島小学校の子はたんぼぼですので、今回加茂地域に設置する予定でございますので、そちらは加茂小学校という形で、ここのクラブを選んでというわけではなくて、あくまで学校の放課後に一番近いところに通っていただくというのが目的ですので、来年度は通所サービスというのは予定しておりません。

○木下順一委員長 瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 分かりました。ありがとうございます。

○木下順一委員長 関連はございますか。

世古安秀委員。

○世古安秀委員 来年4月からこれをスタートさせるという、もうスピーディーにやっていただけるのは本当にありがたいことだなと思います。

先ほど答弁の中で、定員を38～39人ぐらいというふうに考えておるといことですが、実際にこれを受け入れる場合に、やっぱり運営スタッフを非常にどこもなかなか確保するのが大変だというふうに思いますけれども、この辺のスタッフの確保というのは、今の話の中では大体めどというか、何人ぐらい受け入れて何人が要ってと、そういうことはどういうふうに考えていますか。

○木下順一委員長 杉本副室長。

○杉本副室長 子育て支援室の杉本です。よろしくお願いいたします。

運営スタッフにつきまして、これから探していくところではあるんですけれども、40名の定員に対して、国が出している指針でいきますと、職員は2人というふうに示されております。ただ、2人で運営していくのはとても無理な話なので、こちらの希望としては5名程度の職員の方に登録をしていただいて、大体子供10人に対して1人配置しているような運営の仕方を今現在やっておりますので、5人中4人で運営していくようなイメージでいます。

以上です。

○木下順一委員長 世古安秀委員。

○世古安秀委員 今から集めるのは大変ですけれども、教員の方々とか、保育所の経験者とか、いろいろな人たちにも声をかけて、ぜひ4月1日にスタートできるような体制をつくっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

以上です。

○木下順一委員長 関連はございますか。

世古雅人副委員長。

○世古雅人委員 私も、安秀委員が質問したところ、一番ここが大切かなと思っておりますので、ちょっと質問させていただきます。

これまで加茂小学校にも児童クラブをというふうな考えがずっと10年ぐらいあったんですけども、運営体制が難しいという問題がありました。それで、今、責任者というのが、まあ言うたら代表的な方が必要やと思います。それと、先ほど言われたような委員、その方のめどというか、ある程度は進んでいるのかどうかというのをちょっとお聞きします。

○木下順一委員長 山本副参事。

○山本副参事 加茂地域に運営委員会というのを設置していただくに当たりまして、加茂地区の、ちょっと個人名は控えさせてもらいますけれども、教員の関係者のOBの方に、運営委員会の立ち上げについて今協力をお願いしとるところでございます。その方にも、今、ほかのたんぼぼ、エンゼルの現場ももう見ていただきながら、子育て支援室と協議して4月1日に向けて進めているところです。

○木下順一委員長 世古雅人副委員長。

○世古雅人委員 やっぱりもうある程度は進めてもらっているということで、何とか4月1日をめどに進めているということなので、そのめどが立ったのでやっていると、私もそう思っていますので、安全面が一番重要ですので、しっかりお願いしたいと思います。

以上です。

○木下順一委員長 関連はございますか。

南川委員。

○南川則之委員 関連で質問させていただきます。

まず、五十嵐委員が質問してくれた中で、ちょっと私もどうかなと思うところは運営のところ、修繕費を持ってそれを積み立てるというところですね。その辺はもうちょっと担当課としてもしっかり精査して、あくまでも運営費ですので、人件費とか、そんなところで私も一般質問させてもらって、他市の状況、伊勢市の状況を、私、調べて言わせてもらいました。

伊勢市は、本当に1運営部隊が600万円以上出しながらしっかりと運営するための職員を置いたりとかして、もちろん午後から、学校が終わってからですので短時間の運営になると思うんですけども、先ほど5人ぐらい必要やということで、そういった運営に係る費用をしっかりと精査して運用をやってほしいということで、建物とかいろいろ聞いとると、小規模修繕というところは、やっぱり行政側の担当課がしっかり運営者と協議をして、こういうところは担当課として小修繕はせないかとか、大きな修繕であれば、しっかりと予算を盛りながらやっていくというスタイルがふさわしいんじゃないかと思いますので、五十嵐委員がいいところを突いて質問してくれたなと私も思うんですけども、その辺は、今後、今までやってきたところの中でしっかりとしてほしいんですが、その考え方はどうかなというところ。

あと運営に5人ぐらいというんですけども、なかなか、今10人に1人ということですけども、運営するスタッフが限られてくると、その人が休みたいくても休めないとか、いろいろそういったところもありますので、しっかりと人数を確保しながら、交代要員も含めるような運営が必要やないかと思うんですけども、その辺はどう考えとるか、ちょっとしっかりと説明をお願いします。

○木下順一委員長 山本副参事。

○山本副参事 まず、初めの修繕の積立金というところなんですけれども、私の説明がちょっと誤解を招いてし

まっとうようで申し訳ないです。

まず、修繕なんですけれども、基本的に大きなものというのは当然市が修繕しておりまして、先日の令和6年度の決算の成果におきまして、鳥羽小学校のエンゼル・クラブのほうのエアコンを修繕したという形で決算のほうを報告させていただいたところです。そういった大規模といいますか、根本的な修繕というのは、当然、こちらのほうで児童クラブ側と協議しながら進めているところでございますので、全てをそちらのほうに任せているということではございません。

今積み立てるのは、私もこの4月に来てから見させていただいたんですけれども、恐らくこれまで歴史がございまして、1年でそれだけのお金がたまったとか、こちらから将来的な修繕のために積み立てておいてくれというような指示をしたわけではないと考えております。

当然、委員の言われるように、職員のほうに還元するのか、子供たちのところに還元するのかという方法もございまして、今現在、私らのほうも運営委員会に入っておりますので、その会議の中でどういった還元の仕方をしていくとか、本来市がやるべきことを担ってもらうのではなくて、どういう形で使っていくかというも含めて今後協議していきたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

もう一つ、人員確保なんですけれども、今、たんぼぼもエンゼルもそうなんですけれども、運営委員会が雇用主となって指導員の方を雇っていただくことになりますので、市が直雇用するわけではございません。ただ、かといってこちらがいいのかというわけではないので、当然その人数が確保できるように、こちらからはきっちり支援のほうをしていきたいと考えております。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 副参事の説明はよく分かりましたけれども、その辺も含めて、もう一度運営委員会とたんぼぼ、エンゼルも含めて協議をされて、しっかりと中身も、私が質問するときにも少し担当課に聞いて、そういう予算的なところとかはしっかり対応してもらってみたいですので、もうちょっと中身も含めて検討していただきたいなど。

続けてよろしいですか。

○木下順一委員長 はい、どうぞ、南川委員。

○南川則之委員 それと、たんぼぼ、エンゼル、加茂地区ができて、副参事の説明では学校区単位ということで、将来のそれぞれの人数というのは、少子化も含めて、地域にばらけてどうなるかというのはまだまだ不確定な要素があるということで、たんぼぼ、エンゼルであふれた子供たちが加茂へ行くとか、また、加茂で6年生までとなるとあふれる可能性もありますし、そういったところで、柔軟に三つできた放課後児童クラブに子供たちを預けられるような体制というのをもひとつ考えてほしいなと思うんですけれども、そういったところの考えはあるかどうか、お聞きします。

○木下順一委員長 山本副参事。

○山本副参事 小学校1年から3年だけではなく全体にということで答えさせていただいたんですけれども、実際、私どももそこら辺、何人になるかという見込みがないところで、こども計画を立てたときも、原則として3年生以下の受入れという形で量の見込みのほうをしておりますので、正直なところ、高学年のニーズというのがどこまで広がるかというのはちょっと未知なところでございます。

なので、委員のおっしゃるように、各児童クラブ単位であふれてくるという可能性もゼロではないかなと思っています。今現在の考えなんですけれども、そういったときはやはり低学年を優先に受入れのほうをしていただいて、高学年、5年生、6年生がどうしても人数からあふれていくというときは、ちょっと申し訳ないですけれども、利用のほうは控えていただくという形で運営のほうをしていく必要があるのかなと考えております。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 どちらにしても、やっぱり保護者が働きやすい環境というんですか、自分の子供を預けて、そういった体制をしてもらうというところが一番重要なところやと思います。

それと、保護者負担も今検討してくれているという話ですけれども、伊勢市がかなり安くで預けておられるということで、そういった体制、保護者負担のところまで踏み込んで鳥羽市もやっていくとなると、さらに預けやすくなるとかいうこともありますので、全体的なバランスも含めないかなと思うんですけれども、排除することのないように、ぜひ預けやすい体制にしていきたいなと思います。

もう一点だけいいですか。

○木下順一委員長 はい。

○南川則之委員 それで、今回の新設工事で1,831万5,000円ということですが、今、副参事の説明では、内装のいろんなところを改修する予算を盛り込みたいということでこの金額になったと思うんですけれども、先ほどの説明でもあったように、この建物は平成4年に建ててもう33年か4年たつてきとるということで、私も現場も見てきたんですけれども、外装も今まで直したことのないような形跡というか、外壁も塗り替えたようなこともないということで、瓦自体は雨漏りはないのかなということもあるんですけれども、その辺で、外装は今この建物で大丈夫かとか、そんな判断をしているのかどうか、ちょっとお聞きします。

○木下順一委員長 山本副参事。

○山本副参事 今回改修工事を盛らせていただいたのは、委員もおっしゃったように、内装のほうをメインに盛っておりまして、私どもも建物を見させていただいて、当然古くなってきているとは思いますが、躯体のほうが壊れてきているとか、そういった大きなところは目立たなかったということで、今回早期の実現に向けて、まずは内装工事という形で予算を盛らせていただいております。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 加茂地区の放課後児童クラブを新設するというので、内装をやるということですが、外部もきちっと専門家の人に見させていただいて、年数とともに、経年劣化とともにこういった対応をしとけばさらに10年、20年ともつよとか、そんなことも考えながらしっかりと今後も運営管理をしていただきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○木下順一委員長 関連はよろしいですか。

(発言する者なし)

○木下順一委員長 それでは、その他の事業でご質疑はございませんか。9ページ上段です。

濱口委員。

○濱口正久委員 9ページ上段のへき地診療所運営事業についてお聞きます。

もう少し教えていただきたいというのがあって、今回、離島医療会議について、メリットとしてはパイプづくりというふうな説明が今ありましたけれども、この会議に参加されている方々というのは具体的にどんな方々がいるのでしょうか。もうちょっと詳しく教えていただけますでしょうか。

○木下順一委員長 田畑副参事。

○田畑副参事 登壇者につきましては、第3回のを先ほどご説明させていただいたんですけれども、ウェブ配信で全国的に多くの方に聞いていただいている会議になっています。医療関係者はもとより、各自治体でこれからへき地医療をどう進めていくか考えていくようなところも含まれますし、国とのパイプという意味では、今回も第4回に向けて、今のところ関係者に聞きますと、国交省、それから厚労省、内閣府に声をかけているというところで、そういった方々の参加も見込まれると思っています。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

今回いろんなところから、今後の離島医療も含めて、へき地診療所の在り方も含めて会議をされると思うんですけれども、具体的な開催時期とか、規模とか、場所とかというのは、今のところはもう想定されていますでしょうか。

○木下順一委員長 田畑副参事。

○田畑副参事 まだ確定はしていないんですけれども、今のところ1月31日土曜日の講演会が濃厚じゃないかということで調整を進めております。現地にいらっしゃる方は30人規模かなと思っていますけれども、ウェブ配信でかなりの件数聞いていただくような形になるかと思っています。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 場所としては離島を想定されていると思うんですけれども、あと来られる30人の方はどんな方がおられるのでしょうか。今までも含め、過去、どんな方々が現場に来られていたのか教えていただけますか。

○木下順一委員長 田畑副参事。

○田畑副参事 先ほどご説明しましたけれども、医療関係者であったり、国の方であったりというのが登壇者には含まれるかと思っています。このほか、運営している側の離島経済新聞であったりという離島関係の人であったり、本当に関心を寄せていただく様々な方がいらっしゃるかと思うんですけれども、この講演会自体は、本当に公式の場ですので関係者中心になるかと思うんですけれども、鳥羽市で開催する場合には、夜の意見交換等では地元の方等も参加いただけるような形になるのではと考えています。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 不足が見込まれる代診医師の派遣、別で、今この同じ枠の中にありますけれども、菅島診療所の方も今お休みいただいていますけれども、将来にわたってそういうところに、現場を見てもらって、関係者の方々に来ていただくとかというところにつなげると、そういうような狙いもあるのでしょうか。

○木下順一委員長 田畑副参事。

○田畑副参事 第一義的な目的ではないですけども、多くの方にこの鳥羽の医療の在り方を知っていただければとは考えております。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

人口減少時代の医療の在り方について理解を深めるとあるんですけども、いろんな声を巻き込んだほうが僕はいいかなと思うんですけども、住民の方というのも参加できるのでしょうか。

○木下順一委員長 田畑副参事。

○田畑副参事 はい。講演会はもちろん聞いていただけますけれども、それ以外の場面で、意見交換であったりフィールドワークのあたりであったりで何らかの交流の機会が生まれればと考えています。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

理解を深める狙いもあるということが書かれています。今、小泉先生に頑張ってください、鳥羽の医療の現場とかということを実際現地で知っていただくこともすごく大事やと思うんですけども、それ以外の方も多分、1回目、2回目のことを、僕、ちょっと調べさせていただいたんですけども、医療関係の多くの方々に全国でオンラインで見えていただいて、前ですと隠岐の島のほうで、今、現状としてはこういうところにいろいろ取り組んでいるということで、そういうことに興味を持たれる医療関係者の方はおると思うんですね。そういうところに深めていただくということが一つあるかなというのと、あと住民がさらなる理解をすることによって、将来にわたって不安を取り除くということの大きな意味があると思いますので、これは非常に期待をしておるところでございます。応援したいなと思いますので、頑張ってくださいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 関連はございませんか。

南川委員。

○南川則之委員 ちょっと私、聞き逃したかわからんですけども、海士町が3回やって、鳥羽市でということで手を挙げて鳥羽になったということですけども、他の市町で手を挙げたところはあったのかどうか、ちょっとお聞きします。

○木下順一委員長 田畑副参事。

○田畑副参事 これまで海士町さんが開催されてきたということで、主体的に取り組んでいるのは今も海士町であることは変わらないんですけども、そこからご指名で、昨年度、第3回のときに小泉氏が講演した流れもあり、新しい事例をモデルとしつつ、いろんな理解を深めていくという流れの中で、鳥羽市をご指名いただいたような形です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございます。

鳥羽市を挙げて指名いただいたということですけども、最近、診療所等も含めて、へき地に関する医療というところは全国的にも脚光を浴びとって、議会にもかなり視察も増えてきております。そんな中で鳥羽がこうやってやっていくということは本当に重要やということで、濱口委員が言ったように本当に期待も大きいけ

れども、しっかりやらないかなというところもありますので、ぜひこういうことをやりながら広く広めていただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

南川委員。

○南川則之委員 8ページの市災害見舞弔慰金支給事業というところでお願いします。

課長の説明で、議会が行政常任委員会で議案を審議させてもらって、審査委員会を設置するというで認めさせてもらったんですけども、もうその流れやと、先ほどの話から聞くとそうですね。

ということで、そのときに、この委員会は委員5人以内で組織して、医師、弁護士等、その他市長が認める者が組織していくということで、たしかその議論では、まだまだ決定していないというところがあったと思うんです。

今回、予算で計上してやっていただくということで、災害が起こったときに審査会を開催するというで、その先の話になるかなと思うんですけども、今回、この1回分をやるというところはどういうことをするのかと同時に、費用弁償も見込んどるということは、ある程度どういう人が来るかというの見込みながら予算を盛ったと思うんですけども、その辺の詳しい説明をお願いします。

○木下順一委員長 健康福祉課長。

○奥村健康福祉課長 この審査委員会の委員なんですけれども、先般行政常任委員会で言わせていただいてから、うちのほうももう少し深めていこうということで、この間でも少し協議をしております。

その中で、他県で大きな災害が起こったときに実際どうしているかという、県でその審査委員会を設けて、今からどこどこ市の対象の会議をするよ、いまからどこどこ町の対象の会議をするよという形で、ドクターとか委員の方がおり続けながら、決定していく対象者を替えていくというようなスタンスを取るところが割と多いです。

ただ、三重県はこの方式を取らないような話があるので、急遽、今、市町が準備をしているというところなんですけど、そういうことを考えますと、恐らくは医師会も同一ですので、志摩市と一緒にその運営をするような流れになるのかなというふうな想定をしています。

志摩市さんに状況を確認していただいて、医師会さんとこんな話をしていますよというような現状も確認しておりますし、あと会議の中で、どういった人をその災害の関連死等とするかという認定基準というのがあります。それももう一緒にさせてもらおうなというようなことで現在進めているというところで、市町さんのほうと一緒に審査委員さんを探していったということで考えておるんですが、今、とにかくこの予算のほうは、1回分開催できるものを仮で置いておこうというのに近い状況です。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございます。

その議案のときにもいろいろ議論させてもらったと思うんですけども、専門的な知見を持つ人ですので起こってから十分対応できるということで、わざわざ起こっていないのに審査会を開催するというのも、

お金も一般財源を使うということですので、本当にどうかなと私も思います。

しっかりとその辺は考えながら執行していただきたいなと思いますし、委員報酬のほうもこの前ちょっと中身を確認させていただいて、高額なお金、報酬と費用弁償もかかるということで、課長の話では誰になるか分からへんし、また人が、先ほどの話でもそうですけれども、替わってくる可能性があるということで、この審査会自体で理解してもらう人らもどんどん替わる可能性がありますので、無駄ではないと思うんですけども、開催することに関してもしっかりと議論しながら、何となくやったよというだけはいかんと思いますので、しっかりとその辺も踏まえて、医師会等も含めて相談しながらやっていただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 関連はございませんか。

(発言する者なし)

○木下順一委員長 よろしいですね。

ご質疑もないようですので、説明員交代のため暫時休憩します。

(午前11時33分 休憩)

(午前11時39分 再開)

○木下順一委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

続いて、農林水産課及び建設課所管の2款総務費、5款農林水産業費、7款土木費について、担当課の説明を求めます。

農林水産課長。

○吉川農林水産課長 農林水産課、吉川です。よろしくお願いいたします。

補正予算の概要は、5ページ上段をお願いいたします。

令和6年度から国税として森林環境税が導入され、国から地方自治体に譲与された森林環境譲与税の収入から6年度事業に活用した額を差し引いた残額を森林環境譲与税基金に積み立てるため、基金積立金57万4,000円を補正計上するものでございます。

続きまして、概要の9ページ下段をお願いいたします。

加茂川井堰等農事用水路管理業務は、加茂川改修事業により整備しました松尾井堰の農業用取水ポンプが故障したことから、取替え工事を行うための費用として181万5,000円を増額計上するものでございます。

松尾井堰ですが、加茂川の松尾駅付近に設置されておりまして、川幅の長さで横長の黒いゴム製の袋体を膨らませることで川の水をせき止め、取水ポンプにより川の水をくみ上げて周辺の水田へ送水していますが、本年6月にその取水ポンプが老朽化により故障いたしました。

稲の生育時期でありましたので、緊急措置として、現在、仮設ポンプをリースで設置して、今年度の稲作への支障は回避いたしました。仮設ポンプの水を汲み上げることができる量、用水量ですが、これまでの3分の2程度にとどまりますので、安定した農業用水の確保のため、新たに取り替えるものでございます。

続きまして、概要の10ページ上段をお願いいたします。

みえ森と緑の県民税ですが、危険木伐採業務に係る委託料として75万円を増額補正するものです。これは、

当初予算に追加して、市が直営で行う高額な費用になる危険木の伐採費用に充てる予定でございます。財源につきましては、昨年度基金へ積み立てました75万円を取り崩し充当するものでございます。

続きまして、同ページ下段をお願いいたします。

水産研究所維持管理業務は、水産研究所において、漁場調査などで水温、塩分、溶存酸素などを測定する際に使用しております多項目水質計に経年劣化により測定精度の低下などの不具合が生じておりますので、本体を更新する費用を計上し、備品購入費として88万円を増額補正するものです。財源につきましては、水産研究所調査研究費を活用いたします。

これは、白木クリーンセンターにおきましてし尿汚泥由来の肥料を製造しております事業者からの依頼を受けまして、水産研究所の知見を生かして、ノリやアマモの栄養源となる新たな海洋肥料としての可能性とか、あと有効性を検証するための委託研究をこの8月から受けておりまして、購入費用は、その研究費を財源として活用するものでございます。

以上、農林水産業費の説明を終わります。

○木下順一委員長 建設課長。

○岩井建設課長 建設課の岩井です。よろしくお願いします。

補正予算等の概要4ページをお願いします。

下段、積立金（基金）です。62万5,000円を積み立てるものです。令和6年度における都市計画税の収入額から同年度における事業費及び事業に係る市債の元利償還金に充当した額を差し引いた残額が当初の見込みより増額となったことから、基金積立金を補正するものです。

続きまして、11ページ上段をお願いします。

土木一般管理経費になります。

国土交通省が全国6か所にナショナルサイクルルートというのを設定しております。その利活用推進のため、三重県、伊勢市、志摩市と合同で開催するサイクリイベントの実施に係る負担金を補正するものです。予算総額は800万円になります。三重県さんが300万円、鳥羽市、伊勢市、志摩市が100万円ずつ、参加費が200万円ということで、800万円の予算で行います。

日程が、令和8年3月8日日曜日に伊勢の庁舎をスタートし、鳥羽を通して、志摩市を通してまた庁舎に戻るというコースになります。鳥羽市内にエイドステーションという休憩場所なんですが、市民体育館と展望台の2か所でエイドステーションをする予定になっております。

続きまして、11ページをお願いします。

地方道路整備（交付金）事業となります。市道森崎村山線道路改良工事について、当初の見込みより事業費が不足することが判明しましたので補正するものです。800万円の増額をお願いするものです。よろしくお願いします。

○木下順一委員長 建設課副参事。

○鳥羽副参事 建設課の鳥羽です。よろしくお願いします。

補正予算の概要12ページの上段をお願いします。

鳥羽マリナターミナル維持管理経費でございます。鳥羽マリナターミナルの浄化槽及びトイレについて、使

用する上で不具合が生じたことから、修繕に係る費用55万2,000円の増額をお願いするものでございます。

以上で建設課の説明を終わらせていただきます。よろしくご審議のほど、お願いします。

○木下順一委員長 担当課の説明は終わりました。

まず、概要の4ページ下段と5ページ上段、総務費についてご質疑はございませんか。

(発言する者なし)

○木下順一委員長 よろしいですね。

ないようですので、続いて、農林水産業費についてご質疑はございませんか。9ページ下段、10ページ上段です。

瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 10ページの下の水産研究所維持管理業務も入っていますよね。

○木下順一委員長 10ページ下段、はい。

○瀬崎伸一委員 それについてお伺いいたします。

今回は調査の研究費がついて、それに合わせて機器を更新するといったような議案かなと思うんですけども、多項目水質計というやつ、ごめんなさい、私は専門外やもんで分からんのですけれども、現在、水産研究所は塩分濃度やら水温やとか、何かそういう情報をずっと随時出されているかなと思うのですけれども、それに不具合があるということは、現在、何かその辺に影響が出てくるような状況にあるのか、今回は研究依頼をいただいたんで、それ用のバージョンアップでやっていくみたいな方向性なのか、ごめんなさい、ちょっと読み取れへんだもんで教えていただけないですか。

○木下順一委員長 榊原係長。

○榊原係長 農林水産課、榊原です。よろしくお願いします。

今回の研究費とこの多項目水質計は直接は関係ないんですけれども、活用させていただくというところで予算を充てさせていただいたというところでございます。

今、水産研究所のほうで、水温とか塩分とかDO、溶存酸素なんですけれども、そういったのを発表しておりますのは、研究室で測っております。多項目水質計というのはポータブルで、海に行ってその場の状況をつぶさに計測できる機器でございますので、業者さんとかと沖に行ったときに今の海の状況を確認する際なんかに使っておるというところでございますので、それを更新させていただこうと思っております。

○木下順一委員長 関連はございますか。

(発言する者なし)

○木下順一委員長 なければ、ほかの事業でも構いません。

南川委員。

○南川則之委員 9ページの加茂川井堰等農事用水路管理業務ということで、課長、説明をいろいろ詳細にありがとうございます。

この井堰のポンプが故障したということですが、当然経年劣化ということだと思いますけれども、これを利用する耕作面積というのはどのぐらいあって、それと、今から予算が通れば当然新しい機器を作って設

置するということなんだと思うんですけども、来年度の3月ぐらいの本当に水の要るときにそれが間に合うかどうかを含めて、肯定的な説明をお願いします。

○木下順一委員長 松本係長。

○松本係長 農林水産課、松本です。

まず、受益面積につきましては、加茂川井堰から鳥羽の市内のほうに向けて6.2ヘクタールの耕作面積があります。受益者として20名ほど、今耕作されているという状況になります。

この機器なんですが、200の接続口になっておりまして、注文を受けてからの製作となっておりますので、大体発注後2.5か月かかるとなっております。なので、今回補正した後であれば、大体1月から2月ぐらいには納品が可能となっておりますので、来年3月までには対処可能となっております。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございます。

耕作面積を見てもかなり広い、6.2ですか。まだ20名程度が耕作しとるということですので、課長が詳細に交渉したときの状況も含めて、今、仮設対応していただいとるということで大変やったと思うんですけども、ぜひ来年に向けて、特殊品だと思いますけれども製造を回して、しっかりとした対応をしていただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「もう一点、別のところでいいですか」の声あり)

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 10ページの上のみえ森と緑の県民税事業というところでお願いします。

課長の説明では、当初予算に追加して今回75万円を、危険木伐採事業として事業の進捗を図るということなんですけれども、7年度に申請があった全ての市内の町内会さんですか、要望があったものを全部これでこなせるのかどうかとこれ以上にまだあるかどうか、そういうところが分かれば教えてください。

○木下順一委員長 上村課長補佐。

○上村課長補佐 農林水産課、上村です。よろしくお願いいたします。

まず、令和7年度の各町内会・自治会から要望のあった現年度の補助金事業についてなんですけれども、今年22か所が町内会のほうからありまして、予算の枠としましては11町内会でしたので、それともう一つは、昨年応募していない、今年応募したところが優先ということがありましたので、そちらが逆に言いますと13か所ありまして、そのうちの11か所が採択された状態です。ですので、残りのところは今年は採択されなかったという状態です。

内容も、その採択されなかったところの状態もありますけれども、今年、今回75万円の補正を当初予算のほうと合わせて、私が今回着任しましたときに引継ぎで52か所の要望箇所があるというところで、それを精査しましたところ、既に9か所ほど終わっていましたので、まだそれでも43か所残っておるということで、今年の採択には漏れましたけれども、従来のところと合わせまして、この予算で対処可能なところを鳥羽市の

委託事業として進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 数字がちょっといろいろあって、説明を聞くと、まだ令和7年度で採択されないところもあるという理解でいいですね。この75万円を使って、要望がかなりあるということで、それに向けてやっていただくということで、多分町内会からは本当に危険であるということを含めて要望が上がってきていると思いますので、現地も見ながら対応をよろしくお願いします。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。ないならなしと言っていただきますと。

(「なし」の声あり)

○木下順一委員長 ありがとうございます。

ないようですので、続いて、土木費についてご質疑はございませんか。

坂倉委員。

○坂倉広子委員 11ページ、地方道路整備(交付金)事業についてお伺いいたします。

市道森崎村山線道路の改良工事、当初の見込みより事業費が不足することが判明したということから事業が追加されているわけですが、ここの詳細について、当初住民の方が心配していた上下乱高下があるというところはなく、スムーズに工事をしていただいたと思いますが、縁石のところ、夜、安全を確保するために光るのを埋めていただいているので、そこはすごく安心しているわけですが、完全にされていない部分が、いやさかさんのところから久保菌科さんを過ぎたところがされていないように思うんですが、ここはもう夜見える境というか、色の区別がないというのか、道路のところなんですけれども、全部これはライトがつくように、夜光のように、道のところ、安全確保をされたのかどうか教えてください。

○木下順一委員長 舟橋課長補佐。

○舟橋課長補佐 建設課、舟橋です。よろしくお願いします。

今年度、令和7年度事業において、いやさか前のほうがまだ途中ですのでかさ上げと、それと側溝整備を行って完成していきたいと思っています。縁石鉾に関しましては、このまま続いてあるところは整備はさせていただきます。

以上です。

○木下順一委員長 坂倉委員。

○坂倉広子委員 確認させていただきました。

東中学校が来年から名前が変わって、新しい加茂中の子供たちの通学路としての整備というふうに考えておりますので、私もいろんな住民の方からお声をいただいて、ようやく完成のめどがついて、いい方向に道路が安全確保されているなどは感じております。

その中で、子供さんもなんですけれども、幸丘に市営住宅があるんですけれども、そこから、子供さんだけではなく高齢者の方、障がいのある方とか、シニアカー、車を使って渡れる安全確保もしていただいたのかなと思うんですけれども、最終的な部分になりますので、そういうところもきちんと整備、バリアフリーという

のをしていただきたいなと思います。

高齢者の方も結構買物に行くのに充電をしたバイクというんですか、バイクといわないな、電動のを使われているので、そういうところも確保していただきたいなと思うんですけれども、その部分をきちんとしているのか確認させてください。

○木下順一委員長 舟橋課長補佐。

○舟橋課長補佐 引き続き同じようにバリアフリーというか、安全対策をしながら、今年度完成したいと思いますので、よろしくお願いします。

○木下順一委員長 坂倉委員。

○坂倉広子委員 どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

南川委員。

○南川則之委員 今回、交付金を使って事業を行っていただいとるということで、この市道森崎村山線道路改良工事なんですけれども、当初の見込みより事業費が不足して８００万円を計上ということなんですけれども、根本的になぜ不足したかというところの中身について教えてください。

○木下順一委員長 舟橋課長補佐。

○舟橋課長補佐 この不足した分というのは、令和６年度繰越事業の中においていろいろと個人との取付け等で費用が不足しましたので、そちらのほうに令和７年度に使う分を回しましたので、その分８００万円不足が生じました。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございます。

継続事業で交付金事業をやっていただいとるということで、年度をまたいで事業が完成するというので、課長から令和７年度で完成という話も聞いていますので、ぜひ内容も含めてしっかり精査しながら進めていただきたいと思います。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

（「なし」の声あり）

○木下順一委員長 ご質疑もないようですので、説明員交代のため暫時休憩します。

（午後 ０時０１分 休憩）

（午後 ０時５７分 再開）

○木下順一委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

続いて、８款消防費について、担当課の説明を求めます。

消防長。

○世古消防長 消防本部、世古です。よろしくお願いします。

それでは、消防費の9月補正について説明させていただきます。

補正予算等の概要12ページの下段をお願いします。

消防団災害防衛対策経費で61万5,000円を計上しています。消防団員の公務災害防止のため、市町等が行う安全装備品整備事業に対し、消防団員等公務災害補償等共済基金が助成する消防団員公務災害防止活動援助事業に採択されました。このことに伴い、災害時における消防団員間の連絡手段としまして無線機器（トランシーバー）80台を購入し、団本部をはじめ各消防分団に配備するものです。

主な経費は、備品購入費（無線機80台）61万5,000円、主な財源は、全額、消防団員安全装備品整備事業助成金61万5,000円になります。

以上、消防費の補正予算とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○木下順一委員長 担当課の説明は終わりました。

消防費についてご質疑はございませんか。

瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 この活動援助事業の採択ということと無線機を買ったということには関連があるのかなと思うんですけども、無線機を買う以外にはお金は使えないというような採択やったんですか。何か違う方向もあったんですか。

○木下順一委員長 平井係長。

○平井係長 庶務係長、平井です。よろしくお願いいたします。

こちらに関しましては、年に1度、この基金のほうから各市町に対し申請が来ておりまして、そちらに対し、消防本部として消防団員に何が必要なのかということを精査し、まずこちらの基金のほうにこういったものを買いたいんだということで送らせていただきます。その結果を受けて、今回はトランシーバーということで申請を出させていただきましたので、今回につきましてはトランシーバーの購入となります。

以上です。

○木下順一委員長 瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 各消防団の意見もお聞きになられたのかなと思うんですけども、実際、今、現状も分団であるとか各部であるとかに無線機は置いてあるかなと思うんですけども、まだそれに追加が必要やという声が大きかった、無線機とした理由につながるところなんですけれども、あったら教えてください。

○木下順一委員長 平井係長。

○平井係長 委員のおっしゃるとおり、現在、各分団につきましては、消防無線のほうを配らせていただいております。こちらにつきましては、各分団、各部長について配らせていただいております。しかし、それ以外でも情報共有が必要という判断の下、今回トランシーバーの購入に至りました。

以上です。

○木下順一委員長 瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 各分団であるとか部の格納庫なんかにはぼんと置いてある。ただ置いてあるだけやと、これは何やろうなというような方向になることが多いので、何のために使ってほしいんだというような意図も、ぜひ各

部、消防のほうの末端のところにも伝わる何か方向性を考えていただいたほうが、ここのところずっと備品は拡充していただいているんです。スコップをもらったりとかいろいろ、チェーンソーがあったりとかとって充実してきているのは分かるんですけども、部長、幹部クラスは分かっているのかもわからないんですけども、ちょっと下のほうへ来るとこれは何なんやろうなと言うているような声も実際聞きますもんで、上手にちょっとその辺の、せっかく備品を入れていただければ、有効活用していただけるように何か方策を練っていただけないかなと思います。これは要望ですので、答弁はいただきませんので、よろしくお願いします。

○木下順一委員長 他にございませんか。

濱口委員。

○濱口正久委員 ちょっと聞いとって分からんところが出てきたので。

今回、無線機を80台、トランシーバーやと思うんです。ほんで、今消防無線が持っているのとは別のところで80台追加をしていくという考えでよろしいでしょうか。

○木下順一委員長 平井係長。

○平井係長 はい、そのとおりです。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 そうすると、各部で災害時とか、訓練もそうなんですけれども、無線を共有しながら、混線したりとかしているところじゃなくて、もっと各部長から団員のところへの情報が共有しやすいように各部に配布するという考えでよろしいでしょうか。

○木下順一委員長 平井係長。

○平井係長 はい、そのとおりになります。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 そうすると、中で使うことやと思うんですけれども、これを各分団に80台というと相当な数が要ると思うんですけれども、各分団では、もう大体配布の話というのは分団長会議か何かで決められているのでしょうか。

○木下順一委員長 平井係長。

○平井係長 現在につきましては、消防本部で数の配分のほうは検討しておりまして、加茂分団であれば分団として一旦まず14個、そのような形で各分団に振り分けるように現在計画しております。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 はい、分かりました。

これは今までの無線機とは違う使い方として、新たに団員の情報共有としてのトランシーバーを配置していただくと。今まですごいそこら辺のところはアナログで、走って音が聞こえへん、混線するとかというところで、災害時とかもすごく大変で、マンパワーが不足する中で、こういうのも多分団員からも要望があったんだと思うんです。こういうことを入れていただくということは大いに次の活動のときでも力を発揮していただくと思いますので、ぜひともやっていただきたい。

これは簡単に渡したら使えるものなんじゃないかな。

○木下順一委員長 平井係長。

○平井係長 機器については、省電力トランシーバーということで、免許、登録等が不要なものになります。その分、おおむね距離としては800メートルほどの見通しの距離で使用できるということですので、非常に簡単に使用できるものになっております。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

800メートルということですので、普通の各部がいたエリアのところをしっかりと情報共有していくということやと思います。これは安心・安全にもつながる、大事な活動、救助につながるとと思いますので、ありがたいことだと思います。

いつ配備になるか分かっていますでしょうか。

○木下順一委員長 平井係長。

○平井係長 この後、事務処理等々がございますので、おおむねの予定としましては、年内をめどに入れて各分団に配備できればというふうに考えております。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。これを有効活用されるように、しっかり使い方も含めて共有していただきたいと思います。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一委員長 ないようですので、続いて、9款教育費について、担当課の説明を求めます。

学校教育課長。

○小林学校教育課長 学校教育課、小林です。よろしくお願いいたします。

それでは、補正予算の概要13ページ上段をご覧ください。

教育支援事業につきまして、60万9,000円の補正を計上しております。自転車用ヘルメットの着用促進及び児童の安全確保を目的として、市内の小学校5、6年生を対象にヘルメットの購入費用の一部を補助する事業を実施いたします。これは、市内の販売店でヘルメットを購入した際、1人当たり3,000円を上限として補助を行うものでございます。主な財源としましては、ふるさと創生基金繰入金となります。

○木下順一委員長 生涯学習課長。

○中村生涯学習課長 生涯学習課、中村です。よろしくお願いいたします。

13ページ下段をお願いします。

生涯スポーツ振興事業について、116万4,000円の補正をお願いするものです。中学校の部活動地域展開における調整期間の実施に伴う経費になります。

生涯学習課の説明資料をご覧ください。

部活動の地域展開につきましては、これまでにお伝えした内容と重なる部分もありますが、改めて整理してお話しさせていただきます。

中学校の部活動は、少子化による部員数の減少や指導者不足などの理由により、活動の継続が難しくなっております。こうした状況を受け、国は、休日の部活動を地域へ展開する方針を示しており、鳥羽市におきましても、地域全体で生徒の活動を支援する体制を構築していくこととなりました。

鳥羽市の動きとしましては、令和4年度から検討を開始し、保護者や学校関係者へのアンケート調査を実施しました。それらの結果を踏まえて、令和6年3月に中学生世代の新たな地域クラブ活動準備・推進計画を策定しました。また、学校や地域クラブなど関係機関との意見交換を継続して行い、令和8年度には受入れ可能な競技について、休日の地域展開を実施していく予定です。

メリットと課題としましては、多様な活動を楽しめる豊かな交流などのメリットがありますが、課題としては、指導者の確保、学校と地域との連携、生徒の移動手段、支援の仕組みづくり等が必要となります。

補正の概要としましては、子供たちが安心して活動できる環境を確保するため、令和8年度に向けてスムーズかつ安全・安心な地域展開につなげられるよう、令和7年10月から8年3月の間を移行調整期間として合同練習等を実施していきます。

従来の部活動が長く担ってきた役割全てを地域団体が担うことは難しく、運営費や保護者が負担する会費などの課題に対して財政面での支援も必要と考えております。受入れ可能な実施団体、また移動が必要となる生徒に対する支援として、鳥羽市体育協会を通じて補助を行います。補助費用の内訳としましては、競技に必要なスポーツ用品購入費や地域クラブ指導者への報償、中学生及び指導者の交通費、佐田浜の駐車場料金となります。

説明は以上になります。よろしくご審議いただきますようお願いいたします。

○木下順一委員長 担当課の説明は終わりました。

教育費についてご質疑はございませんか。

倉田委員。

○倉田正義委員 上段、教育支援事業、ヘルメットの購入費補助ということをお願いします。

今回、教育委員会においてこういった事業をされるんですが、たしかヘルメットが努力義務となって2年がたつのかなと思います。県内外各自治体の先行事例等を見ますと、もう市単位で市民全般を対象とした補助制度を取られているところが多いと思っています。

鳥羽市においては、教育委員会の事業として小学生だけが対象となる、このあたり、説明をいただけますでしょうか。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 今回、小学校5、6年生ということですが、小学校1年生入学時に自転車を買うときは、大体肘当てであるとか膝当てであるとかヘルメットを購入すると。一般的にヘルメットの耐用年数が3～5年と言われておりますので、ちょうどこの小学校5年生ぐらいが買換えの時期に当たるということです。

中学生は、部活動等々でも自転車通学の子とかはヘルメットをもう既に購入しておりますので、耐用年数

3年間はもちますので、この5年生、6年生あたりが購入するとちょうどいいのかなというふうに考えております。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 今、5年生、6年生に絞ったということも説明がありました。

この絞ったことについて、先ほど課長のほうからも、1、2年生でもう既に購入する事例があるというふうにお聞きしたところですけれども、そのあたりまで対象にしていけるものじゃないのかなというふうにも思っております。このことについて、実態やそのあたり、また所有率とか使用率とか、そういったところの事前調査とかはされていますか。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 事前調査のような正確な数字は持っていないんですけれども、地域、地域によっても違うんですが、大体見た感じとか歩いている方のお話を伺うと、少し安楽島のほうが低いのかなというような感覚は持っております。

以上です。

木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 ありがとうございます。

私自身も大した資料は持っていないんですが、市内4小学校に事前にお話を聞いたところ、大体共通した回答をもらっています。

まず一つは、対象となる5、6年生、この子供たちは、もうほぼヘルメットを持つ状況にはあると。今回60万9,000円、203人分というのかな、これは全児童数になるのかなとは思いますが、ほぼ持っているという実態があると。

それから、公道を走り出す、市道や県の国道へ出だすのが大体中学年、一番ヘルメットの必要性が高くなる年齢が3、4年生であると。

それから、先ほどありましたように、もう低学年において自転車を買われるときに同時にヘルメットを購入しとる家庭が多いということで、5、6年生に絞らなくてもいいのかなというような思いもあるんですが、先ほどの回答のとおりということでよろしいのでしょうか。何か付け加えてありましたら。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 5、6年生というところでは先ほど回答したとおりで、もしお認めいただいて、今後どのような反響があるかということら辺も感じながら、広げていけるのであれば、そのあたりもまた検討はしていきたいと思います。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 先ほど私が伝えました実情等も含めて、十分に低学年から行き渡るような予算が組めるのかなというふうにも思っておりますので、そのあたり、また実施後の状況も見て判断をお願いしたいと思います。もう一つ、その件で。

○木下順一委員長 同事業のところですか。

倉田委員。

○倉田正義委員 もう一つ、視点を変えまして、市内の販売店で購入ということになっています。自分の把握する中で、市内販売店とはどこが当たるのかなということがまず一つ疑問に思うところです。それと、現状、ヘルメットの取扱いや販売はそれほど充実していないのかなと、市内においてというような現状を捉えています。

このことに関わって、どういったところを市内販売店とするのか、また、既にそういったところとの事前の交渉や説明等、円滑に事業を進めるに当たっての事前調査は行われているのか、このあたり教えてください。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 まず、1点目の販売店は、いろいろ当たったんですけども、イオンさんでは取り扱っていただけるという約束はもういただいております。その種類なんですけど、3,000円以上のヘルメット、少しファッショナブルなやつですね、そんなのを数種類は取りそろえてもらえるということもイオンさんのほうから回答はいただいております。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 といいますと、またほかの商店等でも扱うということも含まれるということで、見込みがあるということでしょうか。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 イオン以外の販売店は、お願いはしたところなんですけど、今のところ少し厳しいような状況でした。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 最後、ちょっと要望になりますが、五、六種類は置かれるということなんですけれども、各家庭の実情を見とると、市外専門店等ではたくさんの種類が扱われておりますし、ネット販売とかでは多量にいろんなものが求められる現状かなと思っています。子供たちの好みやそういったものが、安全性が一番なんですけれども、そういった部分で、鳥羽で買うことがすごく保護者にとっても有益性、値段だけのことじゃなくて選べるという、そういったところもぜひとも広く実施できるようにお願いしたいかなと思っています。よろしくをお願いします。

以上です。

○木下順一委員長 関連はございますか。

五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 関連で、まず同じ話なんですけれども、販売店舗を市内に限定した理由は何があるんでしょうか。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 市内で買っていて市内で税金を落としていただくという、そういった意味合いです。

ね。

以上です。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 今お答えでもあったように、イオンさんで買ってもらおうということは、市内に税金を落とすのにどこまでかなというところで疑問があつて、そもそもこれは子供たちの安全を守るため、それで、子供たちの安全を守るためにお金を払う保護者に対しての補助であるはずなのに、それに域内循環みたいなのを抱き合わせるせいで、一気に使いづらいものになってしまっているなというところがすごく残念なんですよ。

ちなみに、この補助の3,000円をもらうためにはどんな手続をする必要があるのでしょうか。申請とかが必要なのでしょうか。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 特に申請とか手続は必要なくて、もうそのままイオンさんに行っていていただいて、そこで申請をしていただいてという形になろうかと思います。制度設計のほうは、まだ少しこれから詰めなければいけないところもあります。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 先ほど倉田委員も言っていることなので繰り返になってしまうんですけど、実際買う場面を考えると、わざわざイオンに行くよりもネットで買うほうが楽だし、イオンで何も手続なしでぱっと買えるんだったら、それはそれで楽なんですけれども、いろいろ選べるとかほかの店舗に行ってもできるというのだったら、領収書と書類をちょっと書いて出すだけのほうが楽なんじゃないかなと思って、ハードルが高かったり使いにくかったりするせいで、せっかく用意した60万9,000円が全然使われないということになっちゃうんじゃないかなというふうに思ってやや残念です。

以上です。

○木下順一委員長 的確な指摘やと思うが、答弁ございますか。

家田課長補佐。

○家田課長補佐 学校教育課、家田です。よろしくお願いします。

先ほど課長からも述べたんですけども、一応保護者の方の手間を取らせないような制度設計を考えておりまして、今考えているところなんですけれども、皆さんに引換券をお渡しして、その引換券を持って販売店へ行っていていただいて、3,000円の割引を受けるような仕組みを考えております。

以上です。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 引換券を作っていただくんだったら、すみません、同じことですが、やっぱりちょっと使いづらいなと思います。すみません。

以上です。

○木下順一委員長 関連はございますか。

瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 私は、限定のところのラインの引き方についてお聞きます。

5、6年生で買換えの時期になる、耐用年数からはそれが導ける。理路整然としているところかなとも思うんですけども、子供は成長が早いんで、頭のサイズとかというのはぐんぐん大きくなっていて、実は5、6年で買い換えるタイミングの一個前に買い換えるタイミングがあると思うんです。多分3年生とか4年生とか、1年2年ぐらい早いかなと思うんですけども。

どこに主眼を置いてラインを引くかによって、結構導かれる答えがそれぞれによって違うところかなと思う中で、予算は限られているからというところも大事だとは思いますが、わざわざそこは線を引かないかんところかなと思うところで、子供たち、小学生は全部で何人なん？というのはもちろんもう我々も分かっている中で、主題としては自転車に乗ったときの安全性の向上を図りたいんだというのであれば、そこは別に線を引かなくても、小学生なら小学生、子供なら子供というところを対象にするという事業にさせていただいたほうが私はいいと思うんですけども、そのあたりは課内でどのように検討されてこの方向性で示されたのか、もう一回説明をいただけませんか。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 繰り返しもなりますが、想定としては、最初に自転車を購入するときにセットでヘルメットも購入をするであろうというところなんです。成長が早い遅いもありますが、大体耐用年数3年ぐらいたってくると3～5で買い換える時期となってくるので、1年生や2年生で自転車を購入された場合は、今度のタイミングは5年生、6年生あたりになってくるのではないかなというようなことでこのようなラインで決めました。以上です。

○木下順一委員長 瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 もう1ターンでとどめます。

先ほど倉田委員がおっしゃったように、恐らく5、6年生というのは、ほぼ自分のサイズ感、自分の思うところのヘルメットというのを持たれと思うんです。もう自転車に乗ってから何年も立っているんで。そこを対象にしてもう限定してしまった補助金やと、決算の段階になって使われませんでしたと、今回この制度は間違いでしたという結果が出る可能性が私は高いと思うんですけども、それでも押し切らないかん理由が僕は分らないのですけれども、何ですかね。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 予算も限られていますのである程度限定的にして、まず初めてのことで、どれぐらいの需要があるかというの分かりませんので、一旦これでやってみて、また繰り返しもなりますが、今後、努力義務化とはいえども保護者はまだヘルメットを購入していない方もたくさんいて、町なかで走っている子供たちを見るとヘルメットをかぶっていないような状況がありますので、そういったあたりも今後検討しながら学年を広げていけたらいいなと思っております。

以上です。

○木下順一委員長 瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 委員長、ありがとうございます。また結果については決算のときにでもお伺いいたします。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 関連でお願いします。

瀬崎委員がいろいろ言ってくれて、聞きたいのは、5, 6年生を対象にして買うということなんですけれども、先ほど倉田委員から203人分の予算やろうという質問があったんですけども、全員が買い換えるとか、アンケートとか、そういうのは事前にとって、みんなが買い換えるからこれぐらいの予算だとしたのか、その辺、教えてください。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 アンケート等は取っておりません。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 この予算がついて、買い換える予算がありますので、買い換える人は今のような引換券を差し上げますとかいう案内をするわけですか。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 はい。特に5年生、6年生にはしっかりと案内をしていこうというふうに話し合っております。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 案内をしてもそれが丈夫であれば、先ほどから瀬崎委員が何遍も言ってくれていますように、それがあと3年も4年ももつのであれば、中学3年までそれを使うという人がほとんどやと思うんですけども。

それと、私、瀬崎委員が言ったように、小学校全体を対象というか、そういったことでもっと議論ができなかったのかなということで、今聞くと、1、2年で自転車を購入したときヘルメットを買うということですので、その人も今回は対象にして、なおかつ買い換える時期の5、6年生も対象にしてあげると、課長が説明したように、全て安全なところはカバーできるかと思うんですけども、なぜ最初に自転車を持つ子らを考えてあげなかったのかというところを教えてください。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 最初に自転車を買う子たちは、セットで購入するというか、自転車とヘルメットと肘当て等と一式で購入するというあたりで、次の買換え時期というタイミングに絞らせていただいたということです。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ということで、セットでも何でもいいんです。もう自転車に乗るという安全面からすると、その子供たちにも当然ヘルメットをかぶってほしいという意識づけをする必要があるのかなと思います。

課長が言ったように予算も限られているというけれども、この主な財源はふるさと創生基金繰入金ですので、1、2年生を対象にしてもここから繰り入れられるよという話ができれば、十分そうした子供たちの安全・安心もカバーできるような予算措置はできたと思うんですね。そこをしっかりと考えて、今言ったように、教育委員会は、全ての子供たちの安全を確保するというのが一番重要なところで、その5、6年が買換える時期やというところだけでなく、そういった議論をしっかりしてほしかったと思うんで、その辺はしなかったか

どうか教えてください。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 そういったあたりも議論には出たんですけども、繰り返しになりますけれども、先ほど述べたようなところで、一旦この5、6年生というところに収まったという形です。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 私、今、この予算決算常任委員会の委員ですので、私は、瀬崎委員が言われたように、全ての子供たちの安全確保、そういったところが必要やと思いますし、1、2年生で自転車とともにするんやったら全ての子供たちにしてあげてほしいなと思いますので、これだけに限定して予算づけをするというのは反対させてもらいます。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか、関連は。

世古雅人副委員長。

○世古雅人委員 なかなかいろんな意見も出ていますけれども、私がちょっとお聞きしたいのは、先ほどアンケートは取らなかったということですが、この事業を行っていくに当たっての保護者の要望はどうであったのか、ほんでこの事業を実施するに至った経緯をまず聞かせてください。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 この事業をやろうというきっかけは、先ほどもあったように、令和5年の4月1日にヘルメットが努力義務化された。ただ、努力義務化されても保護者の意識が非常に低く、全然ヘルメットを購入していない。そういったあたりで、最初はヘルメットを買うんですけども、小さくなってしまったので、もうそのままつけないで乗っている子たちがほとんどだというような感覚ですね、町なかを見ていると。というところで、アンケートではないんですが、ほかの人の意見とか、かぶっていないけどええのかというようなご意見を参考にこの事業に落ち着いたというところなんです。

以上です。

○木下順一委員長 世古雅人委員。

○世古雅人委員 そうすると、保護者からの要望というのはそんなに多いということはないんですね。

言われることはよく分かるんですけども、私もこの予算を見せてもうた中で、まず1年生、2年生とか、そういう乗る段階でまず購入して、そこから買換え時期かなというのはあると思うんですけども、先ほどの安全面を、皆さん同じやと思うんですけども、ここをなぜ5、6年生にしたかというところは私もすごく疑問に思いました。

それとあと、この事業は恐らく継続するのかなと思うんですけども、その確認をちょっとお願いします。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 来年度も引き続き継続はしたいと思っておりますが、今のご意見等々、これから拡充していったほうがいいのかということら辺も考えながらやっていきたいと思っております。

○木下順一委員長 世古雅人委員。

○世古雅人委員 もちろんこの学年とかだけではないというのは、ほぼ皆さん思っていることだと思います。

そこで、3,000円の補助とした算定根拠をちょっとお聞かせください。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 算定根拠は、大体ヘルメットが大体3,000円強といったあたりになってきますので、今、鳥羽東中学校であっせんしているのは2,500円程度の自転車用のヘルメットというあたりになりますので、大体このあたりがヘルメットの相場的なところかなというところですよ。

○木下順一委員長 世古雅人委員。

○世古雅人委員 課長、そうすると、ほぼ自己負担なしで購入できるというような金額になるんですかね。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 イオンさんで取り扱うのはもう少しいいものになってきて、もう少し値段は張ってくると思われます。

○木下順一委員長 世古雅人委員。

○世古雅人委員 分かりました。

それと、もう一点だけ最後に聞かせてもらいたいですけれども、203個を想定していますけれども、5、6年生の今の鳥羽市の児童の人数はどれぐらいですか。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 今、5年生が90人で6年生が113人です。

以上です。

○木下順一委員長 世古雅人委員。

○世古雅人委員 そうすると5、6年生の人数分という予算、分かりました。ありがとうございました。

○木下順一委員長 関連はございますか。

濱口委員。

○濱口正久委員 皆さんいろいろ質問されたんですけど、今回この補正でヘルメットを導入するに当たって、それまで教育の中で子供にヘルメットをかぶるように周知したけれども、なかなか増えなかったという現状があったのか、例えば親御さんに対しても含めて、何かそういう教育とか周知とかはされてきたんでしょうか。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 三重県、また三重県教育委員会、あと三重県警察の連名のチラシ等々もありますので、そういうものも学校へは周知しながら啓発はしてきております。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

先ほど課長からの答弁で、令和5年度から努力義務としてあったけれども、ヘルメットの着用率がなかなか上がらないという話があったと思うんです。そうしますと、いまだにかぶっていない子がいるという状況の中で、導入を5、6年生に決めたということにもつながるかなと思うんです。

そうすると、今の1、2年生でも3、4年生でも持っていない人がいる現状を把握されているということに

も裏返しで聞こえてきたんですけれども、その辺はどうなんでしょうか。

○木下順一委員長 学校教育課長。

○小林学校教育課長 数値的には調査はしていないのでないんですけれども、1、2年生は結構かぶっている子供が多いというふうなことは聞きますけれども、どうしても3、4、5年生ぐらいになってからですと、家庭の考え方にもよりますけれども、少ないんじゃないかというようなことは聞いております。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

そうすると、5、6年生の買換えで全員に充てるというよりも、やっぱり皆さんが言われているように全ての年齢に、まだかぶっていない人がいる状況でというのやったら、子供たちの安全のために導入をするというんやったら、ふるさと創生基金でこれを全部入れたとしても数百万円程度で済むことです。それで安全を確保できるんやったら、僕は、また今後のことになりますけれども、導入をしっかりと検討していただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 教育長。

○岩本教育長 たくさんご意見をいただきましてありがとうございます。

5、6年生でどうしてかというようなご意見もたくさんいただいたかと思えますけれども、まず、課長が答弁していたとおりなんですけれども、5、6年生になってくると今まで以上に活動範囲も広がってくる等々で、危険性もより高まってくるのではないかなというようなこともございますし、警察のほうからも、鳥羽に限ったことではないんですけれども、県内的になかなか努力義務という形でヘルメットの着用度が、パーセントが上がってこないというような指摘もいただきましたので、まずは5、6年生からということで、今回このような形で計上をさせていただきました。

また、南川委員に言っていたように、今回のタイミングで購入したヘルメットについては、従来ですと中学校で自転車通学する際に改めて購入をしているところがございましたけれども、そういったところでも、特に新しくなる中央中学校についてもヘルメットの指定はございませんので、今回購入したものを含めて、ヘルメット着用ということで通学も可能になるというようなことを考えておるところです。

ですので、今回の計上はこのような形になっておりますけれども、今後については、改めて教育委員会のほうで研究、検討してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一委員長 ほかの項目でも構いませんが、もう一つしかないけれども。

倉田委員。

○倉田正義委員 下の生涯スポーツ振興に関わってお願いします。

地域展開ということで、別の説明資料等でも、タイムスケジュール化等についても明確なものを示していたいたかなと思っています。

一つ自分自身把握できにくいところがありまして、説明資料の一番下にも「地域展開の推進には支援や連携

体制づくり等が必要」ということで、連携体制づくりの重要性というのはすごく痛感、自分も感じるところです。

多分鳥羽市の場合も、教育委員会や体育協会、とばスポーツクラブとか地域クラブとか部活動、そういった関係者が基になる組織体系がつくられるのかなと思うんですが、やはりこの関係性とか連携体制というのがきっちり整わないと具体的な展開が難しいのかな、継続性も厳しいのかなと思います。現状において、この関係性を表すような構図は準備できているのでしょうか、お願いします。

○木下順一委員長 生涯学習課長。

○中村生涯学習課長 市の体育協会のほうが各競技団体と調整、連携が可能な組織になりますので、市の体育協会の一事業として、中学校の部活動の受入れの、補助も含めてですけれども、体制を構築しているところです。ただ、まだ難しいところもありますので、各競技団体等と調整をしながら、この半年間、合同練習等も含めて、8年度の4月に向けて実施していきたいと思っています。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 ありがとうございます。

先行的にやっておられるところについては、もう明確なすみ分けとか、そういうものが行われて、明確に図で表してもらっているところが多いかなと思っているんです。この半年間の実施を伴った後にはそういったものは完成するというふうな見通しでよろしいのでしょうか。

○木下順一委員長 生涯学習課長。

○中村生涯学習課長 6年3月に計画を策定していますので、一旦そこには構図という形では明記はしてあるんですけれども、まだ細かな調整がこれから必要なのところもありますので、調整していきたいと思っています。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 はい、分かりました。

まだ未確定な部分も多いという捉えでよろしいのでしょうかね。そんなら、確かな構築に向かってどうぞよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○木下順一委員長 関連はございませんか。

濱口委員。

○濱口正久委員 ここに書かれている9月補正の概要のところ、資料に4項目、補助対象というのは消耗品、報償費、旅費、使用料と書かれていますけれども、これだけに使えるのか、それともそれ以外のところでも、これはあくまでも想定でこんな形というふうに緩くされているのか、どうなんでしょうか。

○木下順一委員長 生涯学習課長。

○中村生涯学習課長 想定ではこの項目にはなりますが、市の体育協会のほうに補助をさせていただいて、それぞれの競技団体等にさらに補助をしていく形になりますので、その補助の申請を相談しながらさせていただきたいと思っています。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 はい、分かりました。

体協としながらということなんですけれども、その委託する体育協会のところが、来年度の8年の4月以降に向けてシミュレーションでこういうふうな話をされているということなんですけれども、どういうことに使いたいとか、どういうことが想定されるとかというのは、十分そこで協議されてきたという認識でよろしいんでしょうか。

○木下順一委員長 生涯学習課長。

○中村生涯学習課長 そうですね。今年度、学校や地域クラブと具体的な話を進めていく中でこのような課題も出てきましたので、財政面でも支援していくという形で、補助対象としてこの項目を上げさせていただきました。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

これ、もともとは中学校の部活動の地域展開の中で、土日を含めて教職員の働き方のところから最初はスタートしてきたと思うんですけれども、鳥羽市においては少子化が急速に進んで、今は令和7年ですけれども、この期間になかなか子供たちが思うように部活動ができにくくなってきて、市で何とか校区を超えてということとで取り組んできたと思うんです。

その中で、この費用のところなんですけれども、旅費、交通費というのは、あくまでも指導者も含めて校区外からの交通費になると書いてあるんですけれども、中学生だけではなくて指導者もこの交通費の対象としてされるんでしょうか。

○木下順一委員長 生涯学習課長。

○中村生涯学習課長 まず、この合同練習等は、部活動の一環で地域の指導者の方に来ていただくんですけれども、1回の練習当たり、報償も含めてですが、2名を想定していますので、その分の旅費、交通費を計上しております。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 そうしますと、この左のほうの課題のところに受皿となる地域団体や指導者の確保が難しいとあって、指導者が確保されない場合、市外から来られる方の交通費もこの想定の中では含んでいるとか、そういう議論はされたんでしょうか。

○木下順一委員長 生涯学習課長。

○中村生涯学習課長 今年度におきましては、市外の方は想定しておりません。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

ここの課題の中に入っている指導者も不足している中で、何とか鳥羽で子供たちの選択肢を広げようと。今やったらもう部活動がどんどん少なくなっていく中で、自由な選択肢を広げようと思うと指導者不足がやっぱり出てくるので、どうしてもというんだったら、市外の中で鳥羽市の出身の方とか、鳥羽市にゆかりのある方とか、鳥羽の競技に参加される方というのはいると思うんです。実際そういう方も、伊勢に住んでいて鳥羽のほうに協力したいと言われている方もいるので、今後、そういうところもぜひとも展開していただきたいとい

うのと、あともう一つ、この認識ですよ。支援や連携体制づくりが必要ということなんですけれども、ある程度保護者とかというのは、前もって、子供たちのことですので、危機感で何とか子供たちに自由な選択肢を与えようとしている中で認識とか理解とかがどんどん広がってきているんですけれども、学校側はなかなか認識が薄いような気も僕はするので、その辺のところの学校の先生方との協議というのはどういうふうに進められてきたんでしょうか。

○木下順一委員長 生涯学習課長。

○中村生涯学習課長 地域クラブもそうですけれども、顧問の先生も一緒に入っていて協議を進めております。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 その辺のところをしっかりと連携しながら、けつを決めないと、本当に子供たちの選択肢が狭められるということはすごく不幸なことです。その辺のところ、学校も、子供たちのためにということも含めて、広い範囲でちょっと柔軟に考えていただきたい。校区というのは狭いですし、いろんなことを考えられて一生懸命やられている先生もみえますけれども、そういう方も含めて、ただ単にもうこうなりますよという話じゃなくて、理解をしていただいて、子供たちのために今後いつかはこういうふうに広げて、みんなで一生懸命広い範囲で取り組む必要があるということをしかり誤解のないように進めていただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一委員長 ご質疑もないようですので、説明員交代のため暫時休憩します。

(午後 1時48分 休憩)

(午後 1時54分 再開)

○木下順一委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

続いて、特別会計補正予算の審査に移ります。

それでは、議案第27号、令和7年度鳥羽市定期航路事業特別会計補正予算（第1号）について、担当課の説明を求めます。

定期船課長。

○村山定期船課長 定期船課、村山です。よろしくお願いします。

それでは、定期航路事業特別会計の補正予算につきまして説明させていただきます。

補正予算書は23ページをご覧ください。

議案第27号、令和7年度鳥羽市定期航路事業特別会計補正予算（第1号）につきまして、歳入歳出ともに3,200万円を増額し、補正後の予算総額をそれぞれ6億9,700万円としています。

それでは、歳入の補正の内容から説明させていただきます。

補正予算書の28、29ページをご覧ください。

5款繰入金、1項一般会計繰入金、目1一般会計繰入金につきましては、3,200万円を増額するものです。歳出補正に係る財源不足を一般会計から繰入金として計上するものです。

続きまして、歳出の補正内容につきまして説明させていただきます。

補正予算等の概要にて説明をいたします。

15ページ上段をご覧ください。

中事業名、船員一般経費につきまして、2,489万円の増額をお願いするものです。

それでは、事前に配付しました資料にて説明をいたします。資料につきましては、9月5日の全員協議会の資料と同じものになります。

令和7年度の船員の時間外についてですが、上段の表から説明いたしますと、4月に関しましては総時間が1,144時間、5月、1,193時間、6月、1,245時間、7月、1,594時間で、7月の金額は460万3,000円となっております。船員の欠員が長期化し、職員の代替勤務が増加していますことから、時間外勤務手当の補正をお願いするものです。

次に、補正予算等の概要15ページ下段をご覧ください。

中事業名、船舶運航経費につきましては、711万円の増額をお願いするものです。第28鳥羽丸の空調機器が故障し、緊急に修繕をしたことから、不足が見込まれる修繕料の補正をお願いするものです。

以上、定期航路事業特別会計の補正予算の説明とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

○木下順一委員長 担当課の説明は終わりました。

ご質疑はございませんか。

濱口委員。

○濱口正久委員 15ページの上段の船員一般経費について、改めて確認します。

今回不足が見込まれる勤務時間外手当を補正してくれということで上げてきましたけれども、これで足りるんですか。

○木下順一委員長 定期船課長。

○村山定期船課長 実はこの補正予算の要求をした段階から1名退職が出ましたので、このままでいきますと予算は足りないというような状況になります。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 そうしますと、今足りないところに対して、状況が改善されるような見込みとかというのはあるんでしょうか。

○木下順一委員長 定期船課長。

○村山定期船課長 船員確保の部分で、今年度も通年募集で1名採用しましたがけれども1か月で退職されて、今も通年募集はかけているんですけれども、ちょっと今後の見込みについては、採用できるかどうかと言われると、一生懸命はやるんですけれども難しい状況かなというふうに思っております。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 僕が言うたのは、結果的に足りないような補正を今の状況改善の中で、厳しいことを言うようですけれども、出してくるということが、定期船課だけじゃないかもわかりませんが、全庁的にこれが予算に現れてくるということが、危機感が改善されていない中で足りないと言われるような補正予算を上げてくるということは、そもそも認識が、危機管理が足らんんじゃないかなと思うんですけれども、その辺の改善に向けて何か今後全庁的にやっていくという方法は、副市長、ございますでしょうか。

○木下順一委員長 副市長。

○大野副市長 やはり先ほど課長のほうから発言があったように、まず人員不足、人が足りていないということがございます。そこは当然人員確保に向けて全庁を挙げて、例えば受験者を増やすであるとか、船員さんにつきましては通年募集にしているとか、引き続き対応はしていきたいとは思っていますが、今、現状では、ちょっと人員が不足しているというところでございます。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 これも決算のときにも何回も聞いていろんな話をしましたけれども、こういうところが数字に出てくると思うんです。補正予算が足らんかもわからんというところがもともともう何か認識がちょっと甘いような気がするので、その辺のところをもう本当に真剣に、これがずっと改善しにくいという、今すぐにはできないというところを想定して、しっかりとこういうところも補正予算を組んでいただきたいなと思います。以上です。

○木下順一委員長 関連はございますか。

（「なし」の声あり）

○木下順一委員長 他にございませんか。

（「なし」の声あり）

○木下順一委員長 ご質疑もないようですので、以上で審査を終わります。

これで、付託された案件は全て説明を受けました。

続いて、採決に入る前に、委員の皆さんで討議したい案件はございますか。

南川委員。

○南川則之委員 何点か、私、討議したい点がありますので、ぜひ討議の時間を設けていただければありがたいなと思います。

内容も言いますか。

○木下順一委員長 ちょっとお待ちくださいね。

まず、内容のほうを、南川委員。

○南川則之委員 まず、私、3点ちょっと討議をお願いしたい案件があります。

まず1点目は、私が質問した財調の基金の積立ての問題で、今後の執行に当たってもこの辺の議論は皆さんで統一したほうがいいかなと思いますので、その点と、あと放課後児童健全育成事業の中でいろいろ議論があったと思いますので、その辺で、もう少しこの加茂地区の新設に当たっての議論というのを深めてほしいなと思いますので、ちょっと。

それと、もう一点は、先ほどの教育支援事業でヘルメットの購入ということで、5、6年生の児童を対象としたところが、瀬崎委員からもあったんですけども、安全を最優先するのであれば、小学生全体を対象にしたほうがいいかなと私は思っておりますので、その辺の皆さんの認識をちょっと確認したいなということで、3点、私のほうからちょっと提案させていただきます。

○木下順一委員長 ありがとうございます。

ただいま南川委員のほうから委員間で討議したい3点が上げられましたけれども、皆さん、この件に関して討議のご用意はありますか。やるか確認させていただいています。

今言われたのは、基金の件と放課後児童クラブ、それから先ほどのヘルメットの件で。よろしいですか。この後委員間で討議をしたいと思います。

それでは、鳥羽市議会基本条例第10条第2項の規定により、委員による討議を行いますので、説明員の皆さんは一時退席してください。

(説明員退室)

○木下順一委員長 それでは、委員の皆さんで付託された議案について討議をお願いしたいんですけども、今、南川委員のほうからは3点上げられました。

まず1点目からいきたいと思うんですけども、基金に関して、その趣旨のほうをもう少し詳しく南川委員のほうからお願いしたいと思います。それで皆さんで討議をしていただきたいと思います。

南川委員。

○南川則之委員 基金のところの財調の積立金ということで、今回2億8,630万円を積み立てるということで、担当課のほうに先ほど質問させてもらって、市として目標を標準財政規模の15%と今考えてやっているということの中で、今回の積立ても含めてどれだけやという話をさせてもらいました。

21.9%までいっとるということで、基金はあればあるほどいいと思うんですけども、その辺で、将来負担比率の話も、私、決算も含めてさせてもらったんですけども、ここ2か年皆減となつとるということで、主な国の予算を取ってくるような事業というのが定かでないというか、そういったところもできていないのかなと思いますし、今本当に生活に困っている、物価高騰でいろんな問題も起こっていますので、もう少し今鳥羽で生活している人を支援するような事業も打てるんとかいう気も説明を受けてしたところでありますので、その辺で、どういう使い方がいいのかとか、基金に積んでいくのがいいのかとか、そういったところを含めて、皆さんのちょっと考えを聞かせてもらったらということで提案させてもらいました。

○木下順一委員長 今、南川委員のほうから提起いただきました積立金の基金、繰り返しになりますけれども、21.9%まで積み上がって、物価高騰等で市内の市民の方々もいろいろと苦慮されとる中で、そういう使い道もないのかとか、そういうふうなご意見やったと思うんですけども、これに対して皆さんでお願いしたいと思います。

濱口委員。

○濱口正久委員 この財調の積み方のことは皆さんも気になっていたと思うんです。実際、今14億7,800万円という残高で、以前聞いたときは15%を目指すというところが、今21.9%まで積み上がっている中で、この財源をどういうふうに使っていくのかということはしっかりと聞く必要があるのかなと。方

向性は、今後、大規模ハードも含め来月の20日に説明があるかと思うんですけれども、そういうところも合わせて、本当に今後もっと積む計画があって何か使い道があるのか、それともそれがなくてやっているのか。

14億7,800円の時、たしかコロナ禍のときに財源がないんじゃないかということでした、私、土地開発基金、当時あった4億6,000万円のうちの4億円を財調のほうに繰り入れる提案をさせていただいて、今、一時的にこっちに入っているものだというふうに認識しているので、本来どう使うべきなのかということも含めて、ちょっとこれは執行部側に確認したほうがいいんじゃないかと思います、考え方として。と僕は思います。

○木下順一委員長 他にございませんか。

今言われとるのは、3億5,000万円やったか、借りとるよね。その辺もあるし、新しく市長が替わって駅前のことと言っておるわけで、お金が幾らあっても足りんのやけれども……。

議長。

○河村 孝議長 委員長、ありがとうございます。

全くお二方のおっしゃるとおりだと思うんですね。今現在で21.9%、12億7,800万円を積んでいますが、課長の説明があって、また議会へその財調の使い方については、今後の使い方として、積みけれども、しっかり取り崩しながら事業も組んでいかないと今後できないだろうという答弁もありました。

南川副議長がおっしゃったように、一般市民から見れば余剰金の2分の1を積むということは、余剰金があるんやったら緊急財政出動してくれよというのが当たり前の感覚であって、だから、お金がないからできませんとか、設計の中で予算の兼ね合いもあるからここまでしかできませんでしたなんていう答弁は市民には通らない話になってしまうわけですね。

財政課の努力でここまで積み上げてきたというのは議会としては評価しなければならないけれども、一方で濱口委員がおっしゃるように、市長も替わって標準財政規模の15%まで積む、はい積みました、じゃ、今後この財政調整基金に対する考え方は、執行部として、改めて今後の大規模災害と駅周辺の再整備、ほかの基金との兼ね合いとか、当然そういったところも含めてもっと積ませてほしいということであれば、そこをしっかりと理論づけて議会に説明する必要があるのではないのかなというふうに私も感じています。

これも濱口委員がおっしゃいましたけれども、10月20日に大規模ハード整備の今後の予定の説明と令和8年度予算の編成方針というのが担当課から説明があると思うんですけれども、そこに関して、財政調整基金の市長が替わった今の執行部の考え方、今後の方針というのは当然セットで出てくるべきだと私も思いますので、委員会のほうからしっかり担当課に申し入れて、そこでしっかり説明できるようにということは議会として申し入れていいのではないのかなというふうに思います。

○木下順一委員長 ありがとうございます。しっかりまとめていただいたと思うので、今のでもいいかと思います。

よろしいですか、この基金の件に関しては今の。

(「はい」の声あり)

○木下順一委員長 2点目の児童クラブのことですけれども、これも南川委員のほうから言われましたので、もう少し討議したい内容等を含めて説明願います。

南川委員。

○南川則之委員 放課後児童健全育成事業で7ページなんですけれども、その中で、主なところというのは五十嵐委員が言ってくれたところでございまして、この新設工事についてはいろいろ担当課から聞いて、その図面も見ながら、質問もさせてもらいながら方向性は分かったんですけれども、経営というところで、担い手にいろいろ検討してもらった中で、一つは、今、エンゼル・クラブとたんぼぼの経営をしてもらったんですけれども、その中で、委託料の範囲の中で、人件費等を含めて経営をするところのものはいいと思うんですけれども、その中に修繕費的なものが入ったところというのは、私も質問させてもらったように、行政側がきちっと手当をして盛り込んでいかないかん範囲やと思うんです。

そこを経営しとるところの中の委託料に含んでいくというのはちょっと内容的におかしいのかなと思いますし、大規模の改修があれば、当然、市、小規模でもやはり市が担うところであるかなと思いますので、もう少し委託費の中身というのもしっかり精査しながら、任せとくんじゃなくて、毎年報告も受けながら多分決算してやっと思えますので、その辺で積み残しがあるようなことを言われましたので、それがいいのかどうかというところの議論をぜひしてほしいなと思っています。

○木下順一委員長 今、南川委員が言われましたけれども、この件に関して、委員さん、どうでしょうか。

五十嵐委員に指摘していただいたけれども、私もそうなるようなことはちょっと初耳みたいなところがあって、委託をしとって、その中に修繕費もあって、それが残ったんで何か積み上げておけるというのは、ちょっと不透明な部分があるのとちがうかいなと思って聞いていましたんですけれども。

五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 先ほどの答弁の中では、大きな修繕、例えば昨年度のエアコンの修理とかに関しては市でちゃんと持っているというような話だったんですけれども、恐らくこれまでそれが、私の予想ですけれども、ちゃんとされていなかったか、何かしてもらえるかどうか不安というのがもしかしたら運営している人たちの中であって、積立という形になっているんじゃないかなというような印象もあるんですよ。何しろまだ中身が全然分からないので、それぐらいしかちょっと言えないんですけれども。

○木下順一委員長 世古委員。

○世古雅人委員 子育て副参事もまだ替わってきたばかりで内容をきちっと、私は聞いていて勘違いというか、正確な答弁を、例えば途中でもちょっと答弁の仕方が悪かったというような言葉があって、自分もその仕事をした中でそういう修繕を行政がするのは私の中では当然という、今の子育て支援室に再度確認した上で、何かそこに落ち度というか、ちょっと我々議員も、もし問題点があるような内容であれば、やはり再度指摘する部分があってもいいのかなと思うので、ここのところはもう一度内容を確認した上で対応するほうがいいのかなと私は思います。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 私が言いたいのは、予算を上げてきた限りはいろんな議員の質問にも答えられるような内容というのは深めていかないかんと思うんですね。持っていった中でしっかりと説明が必要やと思いますので、そこら辺がちょっと、世古副委員長が言われたように、執行部側も少しおろそかになっとなるところがあったと思います。しっかりとその辺も議会に説明いただけるような内容で、また委員長、副委員長に何か報告があれば一番ありがたいなと思います。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 放課後児童クラブの既に運営しているところの運営のことに關してとはまた別でなんだけれども、まず、先ほど瀬崎委員がおっしゃった話で、こっちであふれた人を今度は代わりにこっちにバスで送っていくということはないのかというので、もうこれはしないというふうな感じで答弁されていたと思うんですけども、まず、今、子供は間違いなく減っていく。幾ら子供が減っていくけれども需要は増えているという状況が今あったとしても、今後間違いなく需要は減っていくと思うんですね。そんな中でわざわざお金をかけて新しい放課後児童クラブをつくるということは、そこにかけているお金でもしかしたらほかにもやれるはずだった事業ができなくなるというのがあるはずなんですよ。

その上でもこの事業をやるのであれば、やはり充実したものであって、自信を持って提供できるものであってほしいと思うんですよ。なので、先ほどの質問に対してそれはないですというふうに答えるのではなくて、もう少し柔軟によりよいものにしていくという姿勢を持った上でやってもらわないとこれをやる意味がないと思うんです。なので、そこら辺についてちょっとそういう意見を私はここで言いたいです。

○木下順一委員長 分かりました。

(「実態調査をせな」の声あり)

○木下順一委員長 尾崎委員、手を挙げて言ってください。

南川委員。

○南川則之委員 五十嵐委員が言われたところというのは、今、条例で1年生から3年生となつとところを、市長から小学生全体を対象に考えろという担当課への命令があったということで、そこら辺の議論も今考えとるということで、まだまだ不確定な要素というのが、決まっていないことがありますので、それが煮詰まってくると、瀬崎委員が言われたように3地区のバランスというんですか、その辺も分かってくると思うんですね、6年生まで対象にして。

そうすると、先ほど言った輸送費というか、そこら辺を本当に廃止してもええかを含めて、要るところには必要なところが出てくると思いますので、その辺ももうちょっと担当課で整理をしながら、送迎のところをやらないんじゃないかってまた要る可能性もありますので、もうちょっとまとめていただいて、議員の質問を整理して、また報告をいただけるとありがたいと思うんですけどね。

○木下順一委員長 副委員長。

○世古雅人委員 私も答弁を聞いていまして、今、加茂小学校から人数の加減でたんぼぼとエンゼルと両方、学年で分けて移送しとる、実際は。ですので、今の段階では、加茂小学校の児童の分がなくなることによって定員はオーバーしないという、それは解消できると思うんですよ。

そこはいいんですけども、誰か忘れましてけれども、今後の意見を確認したら、もう需要があっても5、6年生をカットというか排除して、倉田委員が言うたんかな、それで人数合わせをしていくというような答弁やったと思うんですけども、五十嵐委員が言った意見と私も同じく、現在需要があれば、例えば加茂小学校の人数がどんどん減ってしまつて20人しかいない、そうすれば18人とか20人のキャパが、余裕があるとなれば、例えば安楽島小学校がオーバーすれば、今の状況のようにそこから移送して子供らを見るという考えも、やらないというのではなく、柔軟な対応はしてほしいなということは思いました。

ですので、南川委員が言われたようにきちっと把握した中で今後の方向性を、今の段階で受けないという答弁でなく、そういうふうな柔軟な考え方をしてほしいなというので、これは当局に預けるしか、我々がやれということではできないと思うので、そういうことを思いました。その辺、調整してほしいと思います。

○木下順一委員長 他にございませんか。

坂倉委員。

○坂倉広子委員 そもそも話からちょっと聞きたいんですけども、放課後児童クラブというのは、現在では小学校3年生までだったということで、この5、6年生になったというのは、ごめんなさい、私も何か4年生……

(「執行部がおらんからその辺は分かれへん」の声あり)

○坂倉広子委員 そうなんですよ、なので……

○木下順一委員長 5、6年生はヘルメットと違うか。

○坂倉広子委員 すみません、ちょっとごめんなさい。

それで、きちんとした部分というのが、いわゆる骨子、どういうふうな放課後児童クラブなのかというところをもっと知らなくてはいけないと思うんですね。漠然とした情報で私たちが判断しているというのはちょっと疑問に思いますし、この児童クラブでは、地元の人たちが加茂に行きたいと言っているのを、あふれていて行けないから移送サービスを使って子供たちは行っているわけなんですよ。エンゼルのほうへ行っていて、そして保護者の人は帰りは迎えに来るという非常にイレギュラーな部分を私たちは大きな目で見てきたわけですね。保護者の人たちがそれでいいと言って預けているところであるので、もう少しここは精査、調査しなければいけないことだと思っています。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 今回は補正予算なので、議論のところは今これをつくるというところで、これを認めるかということやと思うんですけども、皆さんの話を聞いていると、やっぱりそもそも今の現状の子供たちの様子とか、現状ある二つの児童クラブも含めて状況をきちんと調査して、私たちは執行部からの報告ないし勉強しながら、今後、これが本当に、次の展開としてもどういような状況で補正予算が必要なのか、今後予算が必要なのか、鳥羽の場合1.65平米に1人という基準でいいのか、もっとそこも、鳥羽の在り方も含め、もう一度僕らが、この外で、違う場所で今多分提案していただいたので、ちょっと研究する場所をそもそも設けたらどうかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○木下順一委員長 研究するんであれば行政常任委員会、そんなところで。この議案としては建物を建てるという。ただ、五十嵐委員が言っていたことは今後のことにもつながるんですけども、その辺はまたしっかり行政常任委員会のほうで話をしていくと。これは積年の加茂地区の思いでもあったんで、こういう放課後児童クラブのことは。

続いて、ヘルメットですけども、ここも随分皆さんから多くの意見が出たところですけども、南川委員が言われた、ほかにもたくさんの方が言われていましたけれども、どうも設計がちょっと甘いというか、ヘルメットを買う人数と児童の数が一緒ということは全員がヘルメットを買うみたいにもなるとし、自転車を持っていない子はそもそもどうするんやろうというようなこともあったりもするんですけども、そのあたりも

含めて、皆さんでこの提案されとる内容についてもう少し深めていただきたいと思います。

倉田委員。

○倉田正義委員 質疑の中でも言ったんですけれども、先行して2年前からほかの県の市町、自治体については、市民を対象にやったことなんですよ。もう教育委員会自体の事業としてやるべきことじゃなくて、市民全員の着用と安全性を広めるというのがそもそもの話やと思うんで、教育委員会だけの事業で鳥羽がやっとなんていうのは僕はおかしいなと、これを前提に思っています。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 これはもう委員長報告でも、何か全体として進めてほしいと呼びかけてほしいなというのはあるんです。

大人も含めて、大人がしていないのに子供の実態ではしていませんというのは、そもそものところで、努力義務で大人も高齢者も含めてみんなが安全の意識が低いというところが出てくると思うので、これはもう拡大の意味も含めて多分言ってみえるんだと思うので、この議論に関しては、委員長報告で何か呼びかけてほしいなと思うんです。多分答えは探しとっても結局増やせという話だと思うので。違うんですか。

○木下順一委員長 この後、これを終えると、当然のことながら採決をするんですね。このまま採決したってええかどうかというような。

はい。

○濱口正久委員 今出てきた議論というのは、今後また別なところとか、もっと深める話が必要やとか、執行部の在り方とかいろいろ出ていましたので、それはそれとして、放課後児童クラブはまた調査する、ほんでからヘルメットに関しては全体的に広めていただくということと呼びかけていただいて、今回この出てきた補正予算に関しては、僕はこれでいいのかなと思うんですけれども。

○木下順一委員長 今言われたようなまとめ方でよろしいでしょうか。

議長。

○河村 孝議長 議会のルールとして、そこが皆さんで一致すればそれでいいですけども、賛成の中にも多分熱があるやろうし、南川副議長ははっきりとその部分については反対ですとおっしゃっているんで、じゃ、選択肢として、多数決で反対と賛成に別れる、議会の対応としてですね。議会全体として減額修正を求めていく。もう一個は、賛成はするけれども、条件つきで附帯決議をつけてしっかり執行部に今後の考え方の拡充、当然これは8年度予算につながっていく話なんで、拡充も含めてしっかり検討すべしという附帯決議をつけて賛成に回る。この三つの選択肢だと思うんですよ、議会が取れるところは。その辺を視野に入れてこの後どう採決に持っていくのかというところをもう少し具体的に皆さんに議論していただくと、委員長は進めやすいのではないのかなと思うんですけれども。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 私、質問の中でそういうことを、拡充してほしいということで、瀬崎委員が触れたように小学生全体で、安全性という面でも努力義務になったということで、みんなにかぶってほしい意識があるということで、その辺はぜひ附帯決議をつけていただいて、拡充するんやという意味があれば賛成させていただいて、皆

さんに附帯決議をつけるのももしいかんというのがあったら、教育長からは今後研究課題としたいというところも含めて言っていたんですけれども、市長、副市長のしっかりと検討するんやという方向性が分かれば、別に今回は5、6年生だけというのも拡充するということでもいいかなと思います。

○木下順一委員長 今、南川委員も言われたし議長も言われたように、私もまさに附帯決議をつけるかどうか、議会として、その辺は皆さんに本当に諮っていただきたかったんで、この後採決するにしても、市議会の一致した意見としてその辺の皆さんの意見を聞きたいと思っています。

今、附帯決議をつけて拡充して……

瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 補正予算案全部で要は採決をとると思うんで、ここ1点のことで反対だということはなかなかやりにくい状況下にあるのは私自身もそうです。

反対というわけじゃないんですけれども、もう根本的なことは多分倉田さんが言われたこと、要は努力義務は全国民に課されているにもかかわらず、子供を対象に限定してしまう、それをもっと対象を限定しているやり方を取っていることがすごく違和感につながっているなと思うところで、どだいこの議案を学校教育の担当課が出してきている時点で、もう本当は違和感があるところなんだろうなというのは感じるころなんですけれども。

私も、最後に収めるのは決算でもう一回言いますと言ったように、多分結果としては、恐らくそう使えなかった、使いにくかったという結果が示されてくるんじゃないのかなと分かっているにもかかわらず、たったこれだけのお金ですけれども、やり切ってしまうというのは何か腑に落ちんというところがあるんで、修正動議までかけられるほどのものでもないのかなとは思いますが、難しいなというところで、限定で反対とできたらそうしたいところかなというところなんですけれども、そうはルールは決まっていますので、附帯決議をつけていただくのであれば、もう一回補正予算を上げることは可能かなと思うんで、それぐらいスピーディーな対応をしていただけるような方向性もししめたら、議会の意思としては、やるんなら全部を対象にしてやろうというような意思につながっていかないかなと思うんで、そういった方向性を見いだしていただけたらありがたいなと思います。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 瀬崎委員の言っていることも本当にそうだと思います。

それで、あと、私はすごく答弁を聞いていて感じたのが、何かあやふやだなと、根拠が不明瞭かなと思うところがすごく多くて、何か実態も分かっているような分かっていないような、それでさらに調査とかというのはなくてというところで、すごくそこら辺が不安だったんですよ。これでオーケーとしてしまうと、このぐらいの根拠でオーケーなんやという、これは別に教育委員会だけでなく今後の予算組み全体にも関わってくることだと思うので、何かさらっと通してはいけないんじゃないかなと感じました。

○木下順一委員長 修正の話はあまり皆さん出ていなかったけれども、附帯決議をつけるか、このまま採決にいくか。

濱口委員。

○濱口正久委員 皆さんおっしゃるとおりで、もし今の話でいくと、ここの教育支援事業のところを減額修正で

がさっと一旦、もう一回考え直してこいといってここだけするか、今の話の流れでいくと、それか附帯決議で、次の補正も12月にもあるので、様子を見て上げてくるようにということでやるかだと僕は思うんですけども、やるとしたらね。全部をとというのは僕はちょっと違うかなと、僕の中ではね、それは個人の考えやと思いますので。僕個人的には、もう次に全体に呼びかけてほしいなと。多分教育予算ではなくてという話だと思いますので。

○木下順一委員長 ちょっとまとめたいと思いますので、暫時休憩いたします。

(午後 2時36分 休憩)

(午後 3時32分 再開)

○木下順一委員長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

委員間討議の途中でしたけれども、皆さんに討議していただきました。

ここまですで何かございますか。

南川委員。

○南川則之委員 委員間討議の中で、私、3点提案をさせていただきました。委員の皆さんのいろんな意見を聞きながら、再度執行部の方向性も確認できたと思います。まだまだ不確定な要素もありますので、それはそれとして、今後また議会への報告もあると聞いておりますので、このまま採決にいていただければと思います。以上です。

○木下順一委員長 このまま採決にいてよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○木下順一委員長 それでは、採決に入る前に、説明員交代のため暫時休憩します。

(午後 3時33分 休憩)

(午後 3時36分 再開)

○木下順一委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

これより採決を行います。

お諮りいたします。

議案第26号、令和7年度鳥羽市一般会計補正予算(第4号)について、原案どおり可決することに賛成の方は起立を願います。

(起立全員)

○木下順一委員長 ありがとうございます。

起立全員であります。

よって、議案第26号は原案どおり可決することに決定しました。

続いて、議案第27号を採決します。

お諮りします。

議案第27号、令和7年度鳥羽市定期航路事業特別会計補正予算(第1号)について、原案どおり可決する

ことに賛成の方は起立をお願いします。

(起 立 全 員)

○木下順一委員長 ありがとうございます。

起立全員であります。

よって、議案第２７号については原案どおり可決することに決定しました。

以上で当委員会に付託されました案件の審査は終了しました。

これで委員会を終わりたいと思いますが、本委員会における委員長報告につきましては、ご一任願います。

これをもって予算決算常任委員会を散会します。

(午後 ３時３７分 散会)

委員長はこの会議録をつくりここに署名する。

令和7年9月16日

予算決算常任委員長 木 下 順 一